

FANTICは心から感謝申し上げます。

私たちの商品をお選びいただき、ありがとうございます。

まずは、車両にお乗りになる前にこのマニュアルをご一読ください。ここには多くの情報やアドバイス、モーターサイクルのメンテナンスで必要な注意や使い方について記されています。このマニュアルで示しているインストラクションはシンプル、かつ明確なガイドとなるよう考えぬかれたものなのです。こうした注意事項などを事前に十分にご理解いただくことで、新しい車両にお乗りになる前に十分に車両について自信をお持ちいただくことができ、それは愛車をより長く、楽しく、ご満足いただきながらお乗りいただけることにつながるものと確信しています。

TABLE OF COntEnTS

はじめに.....	6
製造事業者及び版	6
一般情報	7
マニュアルで用いられるシンボルについて	7
車両への変更、改造について	7
お気を付けいただきたいこと	8
車台番号	13
お使いいただくにあたり	15
運転前の心構え	15
慣らし運転について	18
主電源の投入(ON)と切断 (OFF)	19
走行開始と、ギアの使用について	22
安全なブレーキング	23
アンチロック・ブレーキシステム (ABS)	24
コーナリングABS システム (オプション)	25
パッセンジャーシートの取り外し	25
パーキング	26
サイドスタンド	26
荷物の積載	27
サイレンサー	27
乗車時の服装	28
アクセサリー	28
車両の運搬	28

燃料の補充	29
各部の名称	30
メインコントロール	30
パネルの表示	32
運転のための操作と調整	33
イグニッション・スイッチ	33
ステアリングロック（ハンドルロック）の使い方	34
キルスイッチ（エンジンストップボタン）	34
スタートボタン	35
ホーンボタン	35
ターンシグナル（ウィンカー）スイッチ	36
ヘッドライトスイッチ：ロービーム/ハイビームの使用法	36
パッシングランプ（ハイビーム。フラッシングボタン）	37
ハザードスイッチ（エマージェンシーライトスイッチ）	37
サスペンション	38
フロントブレーキレバーの調整	41
クラッチレバーの調整	41
ヘッドライト及びターンシグナル（ウィンカー）	42
ヘッドライト光軸調整	42
後写鏡（サイドミラー）	44
デジタル・ダッシュボード	45
ダッシュボード上の操作	52

TABLE OF CoNtEnTS

ディスプレイモードの選択 / ライディングインフォメーション・メニュー (RIDE)	53
ライディングモードの選択	54
セッティングメニューへのアクセス	56
警告及びエラーの表示	60
エンジンストップ/スタート	62
定期メンテナンスについて	63
メンテナンスの重要性 / 定期点検を安全に行うために	63
お客さまが行うべき操作の点検、確認事項	64
エンジンオイル	65
タイヤ	67
クーラント（冷却液）	70
ブレーキシステム	72
ドライブチェーン	75
クラッチレバーの遊び調整	78
トラブルシューティング	80
バッテリー	82
ヒューズ及びリレー	84
車両を長期保管するときには	86
洗車について	87
推奨品リスト	89
メンテナンス・プラン	91
メンテナンス・スケジュール	91

スケジュールの則ったメンテナンスを	92
テクニカルデータ（諸元表）	96
規制適合宣言	100

はじめに

このマニュアルは、ご購入いただいた車両の一部でもあります。したがって、もし車両をほかの方にお譲りになる場合には、マニュアルも併せてお渡しください。ファンティック・モーター社はこの車両の諸元や設計値、あるいはマニュアル中で表現されている車両の特徴、説明などについて、特に事前の連絡なく、自由に改変できる権利を有しています。このマニュアル、もしくはその一部について、内容を端折ったり、勝手に翻訳することは許されていません。また、ファンティック・モーター社の許可なくマニュアルの内容を剽竊したり抜粋することは認められていません。ファンティック・モーター社は印刷にかかわるエラーや落丁などについて責任は負いかねます。すべての権利はファンティック・モーター社に帰属します。

エンジンを始動する前に、このマニュアルを注意深く読んでください。お客さまご自身の安全、またお客さまの周囲の環境や近しい方への起こりうる影響はお客さまご自身がいかに素早く、敏捷に行動したとしてもすべてが担保できるわけではありません。一方で、車両についての十分な知識を身に付け、交通法規を遵守することで、より安全にモーターサイクルに接していただくことが可能になります。従い、まずはご自身がご自分の愛車について十分に理解し、その結果としていかなる状況でも自信をもってマシンを制御できるようにしていただきたいのです。

製造事業者及び版

FANTIC MOTOR S.P.A.

www.fantic.com - info@fanticmotor.it

Edition: 00/2025.

Code: V2515005.

マニュアルで用いられるシンボルについて

このマニュアル内では、以下のような注意点がシンボルとともに記載されています。

△ 車両および運転者にかかわる重要な安全関連法規

① 車両のご使用やその性格にかかわる情報の注記

 締結トルク：示されているトルク値を守って締結すること。

 計測データ：摩耗限界値など、示されている設計値に適合するか否かを判断するための指標です。

 機器：説明されている作業を実施するために必要な機器、工具等を示します。

 消耗品：油脂、燃料、シーラント、添加剤などの消耗品について、作業に必要な量と企画、商品名が記載されています。

車両への変更、改造について

純正部品の取り外しを含む、いかなる車両に加えられる変更についても、車両に本来設計上与えられた能力を損ない、また安全性を損ない、かつ違法となる恐れがあります。常に車両に関する法令、また地方条例などを遵守するようお勧めします。特に車両本来の特性の変更を目的とした改造や性能の向上を求める改装などは避けるようにしてください。

純正部品に変更を加えることは、法令に禁止されているばかりか、車両を法規不適合とし、安全運転を損ねるリスクにはらんでいます。こうした変更、改造は保証を無効にするほか、車両に与えられた有効な認証をも無効にします。

ファンテック・モーター社ではこうした意図的な改造に起因する人、動物または所有物等への損害や障害について一切の責任を負いません。アクセサリーの取り付けについても使用者が責任を負います。メーカー純正アクセサリーの使用をお勧めします。



高温となる部品について



エンジンやマフラー、ラジエーターなど、いくつかの車両の部品は高音になり、またエンジンを停止したのちもしばらくはその暑さのままであることがあります。車両に接する際には、やけどを避け、正しく肌を露出しない服装で、手袋などを用いていただくか、車両が完全にクールダウンするまで待って作業してください。

一酸化炭素について



排気ガスには一酸化炭素や類似の有毒ガスが含まれています。最悪の場合死に至る恐れもあるこうした排気煙から身を守るためには、直接匂いをかいだりせず、解放された空間や換気の良い環境でのみ、こうした作業に取り組んでください。やむなく密閉された空間での作業となる場合は、排気ガスを室外に排出する仕組みのご活用をご検討ください。

燃料について



燃料は可燃性が極めて高く、特定の条件下では爆発につながります。このため、給油や関連する作業は十分に換気された環境で、かつ車両の主電源をオフにして行ってください。給油中や燃料の蒸発、揮発が疑われる環境下での喫煙は厳禁です。ライターや暖房器具などの炎、火花が生じる恐れがあるなどにも十分ご注意ください。メンテナンス作業中は正しい服装で体を覆い、グローブとゴーグルを着用してください。燃料は人体に有害です。吸入、摂取のほか、刺激性もあるため皮膚や目に接触すると重大な結果を引き起こす恐れがあります。万が一飲み込んだ場合は無理に嘔吐させずにすぐに救急医療センターで手当てを受け、事故の原因と発生状況を報告してください。皮膚に付着した場合は大量の清浄な水と石鹼で患部を洗浄してください。万が一目に入った場合は、すぐに大量の清浄な水で患部を洗浄し、救急救命医に事故が発生した理由と状況を添ええ、すぐに受診してください。衣服に付着した場合は脱ぎ、その個所を大量の清浄な水で石鹼で洗浄してください。付着した衣服についても同様に処置してください。お子様の手に届くところにはおかないこと。また定められていないところに廃棄しないこと。

エンジンオイル、ブレーキフルード、サスペンションオイルについて

 整備やメンテナンス時には、常に正しい服装で臨み、グローブとゴーグルの装着を行うこと。エンジンオイル、ブレーキフルード、サスペンションオイルはいずれも人体に有害です。吸入や摂取は絶対に避けてください。皮膚への直接の接触は痛みを伴う刺激を生じることがあります。ブレーキフルードは吸湿性が高いため金属を容易に腐食させるほか、添加剤等の影響で皮膚や目に入ると大きな損傷を惹きおこす恐れがあります。万が一飲み込んだ場合は無理に嘔吐させずにすぐに救急医療センターで手当てを受け、事故の原因と発生状況を報告してください。皮膚に付着した場合は大量の清浄な水と石鹼で患部を洗浄してください。万が一目に入った場合は、すぐに大量の清浄な水で患部を洗浄し、救急救命医に事故が発生した理由と状況を添え、すぐに受診してください。衣服に付着した場合は脱ぎ、その個所を大量の清浄な水で石鹼で洗浄してください。付着した衣服についても同様に処置してください。ブレーキフルードは塗装表面はもちろん、樹脂やゴム類も侵します。整備を行う際には、こうした部品についてはあらかじめきれいな布などで覆っておくことをおすすめします。

 使用済みのエンジンオイルやサスペンションオイル、ブレーキフルードなどは地域の条例などに従ってオイル廃棄拠点に持ち込み、適切な処理を行うこと。定められていない場所に廃棄しないこと。

クーラント（冷却水）

 メンテナンス時には常に正しい服装で臨み、グローブとゴーグルを装着すること。エンジン稼働中はクーラントには圧力がかけられています。ラジエーターキャップは車両が完全に冷えてから外してください。クーラントの成分のエチレン・グリコールは可燃性です。炎が見えていなくても火傷を生じえます。クーラントを車両の熱を持つ部分にこぼさないこと。クーラントは人体に有害です。特に吸入や摂取は絶対に避けてください。また、皮膚や目などに直接触れると深刻なダメージを与える可能性があります。十分にご注意ください。万が一飲み込んだ場合は無理に嘔吐させずにすぐに救急医療センターで手当てを受け、事故の原因と発生状況を報告してください。皮膚に付着した場合は大量の清浄な水と石鹼で患部を洗浄してください。万が一目に入った場合は、すぐに大量の清浄



な水で患部を洗浄し、救急救命医に事故が発生した理由と状況を添ええ、すぐに受診してください。衣服に付着した場合は脱ぎ、その個所を大量の清浄な水で石鹼で洗浄してください。付着した衣服についても同様に処置してください。お子様の手の届かないところに保管し、定めのない場所への勝手な廃棄は慎んでください。

バッテリー



① この車両にはメンテナンスフリー・バッテリーが搭載されています。従い、電解液の補充などは必要ありません。



△ バッテリー交換等を行う際には十分に換気された場所で行ってください。バッテリーは揮発性のガスを生じることがあります。火気や火花など引火や爆発の危険があるものを近づけないでください。バッテリー内の電解液は、希硫酸で構成されています。こうした電解液は吸入や摂取などを行うと健康に有害です。また、腐食性を有し、皮膚や目に直接接触すると、痛みや深刻な障害を負わせる恐れがあります。万が一飲み込んだ場合は無理に嘔吐させずにすぐに救急医療センターで手当てを受け、事故の原因と発生状況を報告してください。皮膚に付着した場合は大量の清浄な水と石鹼で患部を洗浄してください。。万が一目に入った場合は、すぐに大量の清浄な水で患部を洗浄し、救急救命医に事故が発生した理由と状況を添ええ、すぐに受診してください。衣服に付着した場合は脱ぎ、その個所を大量の清浄な水で石鹼で洗浄してください。付着した衣服についても同様に処置してください。バッテリーの廃棄は地域のルールに従ってください。

ラジエーター及び冷却ファン



△ 手やウェスなどを冷却ファンに近づけないこと。指定された温度に達すると警告なしに突然作動するように設計されています。

車台番号

JP

フレーム番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

エンジン番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

ファンティック・モーター社 の車両はフレーム及びエンジン番号をそれぞれ個別に有しています。それぞれの固有番号を上記の枠内に転記し、車両が盗難されたりひどい損傷を負った時に参照できるようにしてください。

 固有の番号を変更しないこと。車体番号の改変は重大な法令違反となります。また、車台番号が識別できない場合、新車に対するメーカー保証は無効になります。

一般情報

フレーム番号

フレーム番号はステアリングチューブの右側に打刻されています。

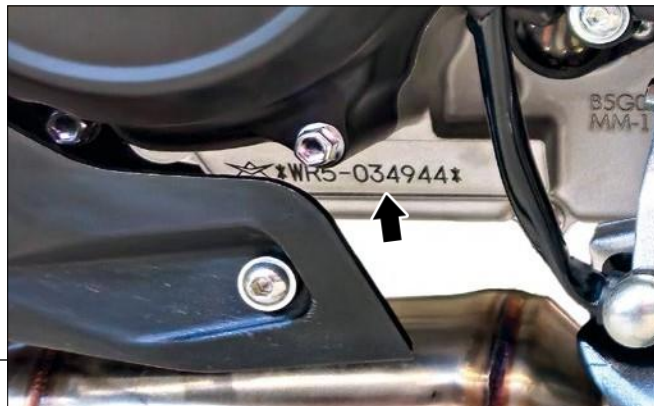
- ① 右のイメージはサンプルです。
- ① 純正部品の発注のためにも、この車だ愛番号を販売店にお伝えください。



エンジン番号

エンジン番号はクランクケース下部左側に打刻されています。

- ① 右のイメージはサンプルです。



運転前の心構え

愛車の運転にあたって、ご自身のお怪我や他者、器物等への被害を与えることなく、安全にお使いいただくためのヒントです。

車両をお使いいただくには

車両をお使いいただくにあたっては、すべての法規を遵守していただく必要があります。

車両になれば、十分理解していただくためには、交通量や人口が少ない地域でまずお使いいただくことをおすすめします。

運転中はまず道路標識などを尊重し、急激で危険な動作は避け、両手でハンドルバーを握り、常にフットペグに足を乗せて運転してください。乗車中は運転の細心の注意を払うこと。

 車両を飲酒、あるいは薬物の影響下にあるとき、特定の薬などを服用したのち、または身体的疲労や眠気が残るときなどに運転しないこと。お守りいただけない場合、非常に危険な状況に陥り、ご自身や他の財産、人に重大な損害を与える恐れがあります。

 乗車前にエンジンオイル、ブレーキフルード、サスペンションオイルやクーラントなどの油脂類の漏れがないか点検してください。ご乗車にあたっては路面の状況、視界や天候を十分に考慮してください。安全な運航には適していないと判断される場合には、速度を十分に落とし、慎重に運転してください。濡れた路面では、ブレーキの効力は一般に低下しがちです。ポンピングブレーキを使うか、時に応じてブレーキを積極的に用いて、そのコンディションでの効き具合を理解しておきましょう。

 この車両はABSシステムを搭載していますが、濡れた路面や不整地などでのブレーキングには十分注意してください。

車両を汚れた路面や砂が浮いたような路面、泥、雪や塩が撒かれた路面などを走行される場合、ブレーキディスクを点検してください。ディスクのスリット、穴などに汚れやつまりがあった場合は洗剤で丁寧に浄化し、ブレーキパッドの無用な損耗や制動力の悪化を避けるようにしましょう。

車両への乗り降りに際しては、まずご自身が自由に動けて、また周辺の障害物等に影響されないようにしてください。左側からアプローチし、先にサイドスタンドを上げ、バランスを崩したり転倒したりしないように注意してまがりましょう。

 **運転手が必ず先に乗車し、また最後に降車し、車両の安定性を確保してください。**

お使いいただくにあたり

まずまたがろう

ハンドルバーを正しく支え、ご自身の体重をサイドスタンドに掛けることなく乗車しましょう。必ず片足を地面につけ、車両を正立させて走り出せる状態にします。

- ① サイドスタンドは車両の重量を支えるために設計されており、運転手や同乗者の体重を支えるようにはできていません。もし両足で車両を支えられない場合、右足を地面につけておきましょう。そうすることで、万が一バランスを左側に崩してもサイドスタンドが支えてくれます。

同乗者用のフットペグはあらかじめ出しておき、同乗者が車両にまたがるのを待ちましょう。

- ① 同乗者に車両への乗り方を教えることは運転者の義務です。同乗者は十分注意を払って車両に乗り、運転者や車両のバランスを崩さないように留意してください。同乗者は左側フットペグを用いて、必ず左側から乗車すること。

左足を使ってサイドスタンドを格納しましょう。

車両から降りるときには

車両を止める際には水平で障害物がない場所を選びましょう。左足を使ってまずサイドスタンドを出します。

- ① もし両足で車両を支えられない場合、右足を地面につけておきましょう。そうすることで、万が一バランスを左側に崩してもサイドスタンドが支えてくれます。

車両を正立状態で保持し、同乗者が車両から降りるのを待ちます。

- ① 同乗者は必ず左側から降車しましょう。同乗者に車両からの降り方を教えることは運転者の義務です。同乗者は十分注意を払って車両から降り、運転者や車両のバランスを崩さないように留意してください。

⚠ 車両から飛び降りたり、無理に足を伸ばして降りようとしないこと。安定性が犠牲になりかねません。

車両を起こし、サイドスタンドを出して設地させます。車両から降車し、ハンドルを左に切りましょう。

⚠ 車両が完全に停止し、安全であることを確認して下さい。また、車両を保持するときにはライセンスホルダーフレームを持たないこと。

慣らし運転について

エンジン

走行距離 **0 ～ 1000 km** はエンジンの寿命を決めるうえで最も重要です。このため、以下の指示に注意深く従ってください。

エンジンは全くの新品であることに鑑み、最初の1000kmはエンジンに過大なストレスを与えてはいけません。このフェーズでは、エンジン内部の部品がここに消耗し、また締結、接触する部品同士がなじみ、最終的に正しい公差に落ち着いていきます。この期間中は、長時間にわたる全開走行や、エンジンをオーバーヒートさせるような状況では使用しないでください。

0-500 km (0-300 mi)

- 5000rpm以上でのエンジンの長時間の運転は避けてください。
- エンジン始動後1時間ごとに、必ずエンジンを切り、5-10分ほどエンジンを冷却してください。
- エンジン回転数を様々に使用し、同一回転で走る続けることが無いよう注意してください。

500-1000 km (300-600 mi)

- 7500rpm以上でのエンジンの長時間の運転は避けてください。
- 様々なギアを選びながら自由にアクセルを開けてください。ただしフルスロットル（全開）にはしないこと。

 **1000 km (600 mi) 時に「メインテナンスプラン」に示したように最初のサービスを受けてください。**

1000 km (600 mi) 以上

- ここからは通常通りに運転していただいて構いません。

 **エンジンスピード（回転数）がレッドゾーンを超えないように注意すること。**

 **慣らし運転中にエンジンが不調を訴えた際には、ファンティックの正規販売店に直ちに連絡をとってください。**

ブレーキシステム

ブレーキパッドも、ディスクローターとの接触面がきちんと仕上がるよう、新品時には慣らしが必要です。ブレーキパッドの慣らしはおおむね200km程の郊外での走り込みが必要です。この間、制動距離がやや長くなること、またレバーの握りこみにやや力を必要とすることにお気を付けください。急制動やだらだらとしたブレーキングは避けてください。

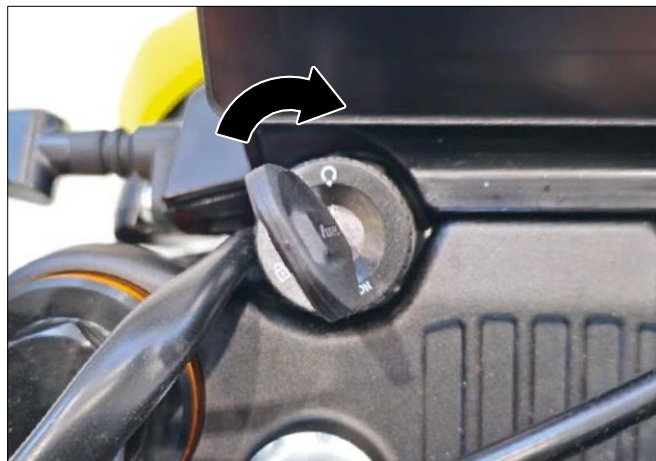
お使いいただくにあたり

車両の主電源のON/OFF

始動

Rメインキーを時計回りに回し、まずハンドルロックを解除します。車両にまたがり、正しい姿勢をとりましょう。サイドスタンドは確実に畳むこと。

⚠️ もしサイドスタンドが下がったままだと、車両のエンジンハギアがニュートラルにある場合に限り再始動可能です。その時にギアを試しに入れても、エンジンは自動的に停止してしまいます。



JP

安全のため、フロント、および（あるいは）リアブレーキを握りましょう。クラッチ・レバーも握りこみ、エンジンを始動する前に確実にギアシフターがニュートラルに入っていることを確認してください。



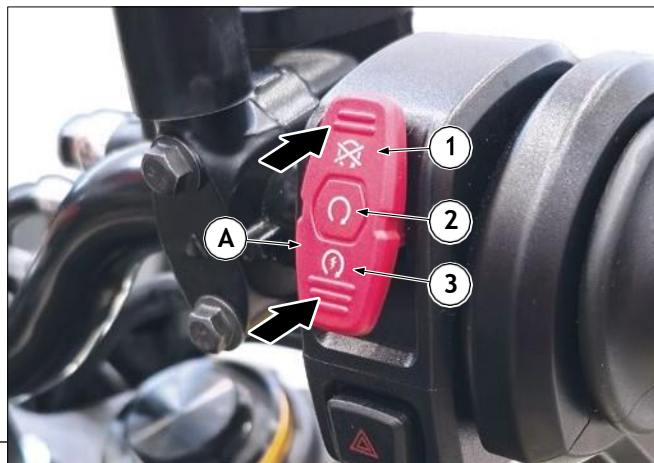
お使いいただくにあたり

メインキーを (On) の位置に回し、デジタル・ダッシュボードに始動のためのシーケンスが表示されるのを待ちます。



エンジンを始動させるには、右の“A”のスイッチを、①の位置から②の位置に動かします。次いで、③の位置でボタンを押し、エンジンを始動します。

 エンジンの暖気を十分に行うために、始動後最初の数キロメートルは速度を抑え、ゆっくりと走らせましょう。冷えたエンジンを急に激しく動かすことは避けましょう。



お使いいただくにあたり

エンジン停止

⚠ 車両が動いている間は、エンジンストップスイッチ（キルスイッチ）でエンジンを停止しないこと。銃なエンジン停止はメカニカルトラブル発生の遠因ともなりますし、何よりも車両のコントロールが困難になる恐れがあります。

⚠ クラッチを不必要に素早くリリースしたり、急な操作を行うことは避けましょう。急激にクラッチを離す（つなげる）ことは、エンストを誘発したり、場合によっては急なウィリーなど、車体の制御がむづかしくなるかもしれません。

⚠ 急停止や急発進は避けましょう。。

Grブレーキとクラッチを同時にスムーズに操作し、車両を徐行させながら完全に停止させること。クラッチレバーをそのまま握り、ギアシフトレバーをニュートラルの位置に入れます。続いてメインキーを反時計回りに回転させ、(OFF) の位置にしたのちに、エンジンストップスイッチを押し下げてください（『エンジンストップスイッチ』のセクションをご参照ください）。サイドスタンドを下げ、車両の左側から降車しましょう。

必要に応じて、ステアリングロック（『ステアリングロックの方法』セクションをご参照ください）を行います。

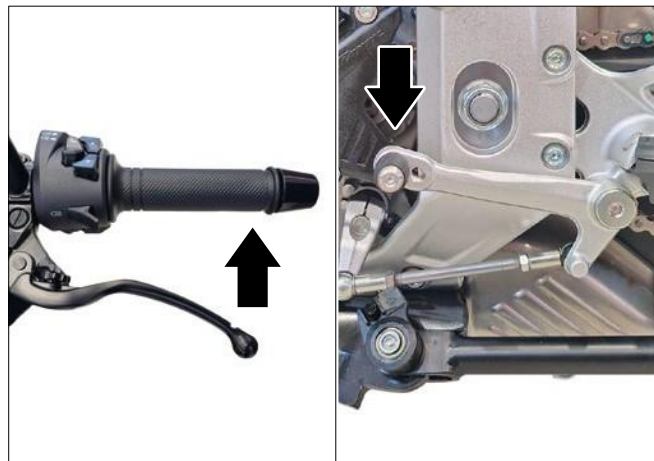
① **メインキーをONの位置のまま放置すると、バッテリーが消耗し、場合によっては交換しなくてはなくなる恐れがあります。**



走行開始と、ギアの使用について

走行開始

エンジンを始動し十分に暖気が進んだら、クラッチレバーを操作して、握りこみます。左足にあるギアシフト・ペダルを下方方向に操作してギアを1速に入れましょう。この時、ニュートラル・インジケータ・ランプがダッシュボード内で消灯します。



クラッチレバーをゆっくりと放し、同時にゆっくりとスロットルをひねり、車両が走り出せるようにしましょう

 **加速中であっても、エンジン回転数が11,200rpmを超えないようにしてください(タコメーターでの表示については『デジタル・ダッシュボード』のセクションを参照)。エンジンに深刻なダメージを与えることを避けるため、必ずお守りください。**



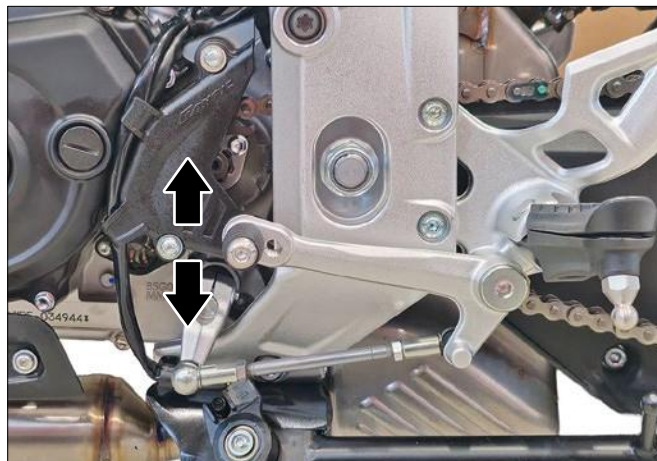
お使いいただくにあたり

ギアシフトの使い方

ギアを変更する際には、スロットルグリップを戻し、クラッチレバーを握り、ギアシフトペダルを揺き上げるとシフトアップ、押し下げるとシフトダウンになります。

- ① 初めてこの車両に乗るときには、車両の機能や操作方法について十分に理解を深めてください。

- ⚠ ギアシフトは1回当たり1速ごとに行ってください。加速、原則いずれであっても、1回の操作で2段以上のギアシフトを行うことは、エンジンに過負荷をかけ、場合によってはオーバーレブさせて壊す可能性もあります。



JP

安全な制動

- ① まず速度を適切に落とします。シフトダウンによってエンジンブレーキを有効に使い、次いで前後両方のブレーキを用いてバランスよく減速しましょう。

- ① 車両が完全に停止する前に、クラッチを握りエンジンが突然停止することが無いよう備えます。

- ⚠ 濡れた路面、不整地や滑りやすい路面（グラベルや落ち葉、凍結など）ではグリップを失いやすいため、特に注意して車両を操作してください。強すぎるブレーキキングやフロント側への過剰な入力にはブレーキをロックさせる危険がありますから、そうした転倒を防ぐように注意しましょう。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

この車両には、選択したライディングモードに応じて前輪のみ、もしくは両輪に介入できるABSシステムが装備されています。詳しくは『ライディングモード』のセクションをご参照ください。

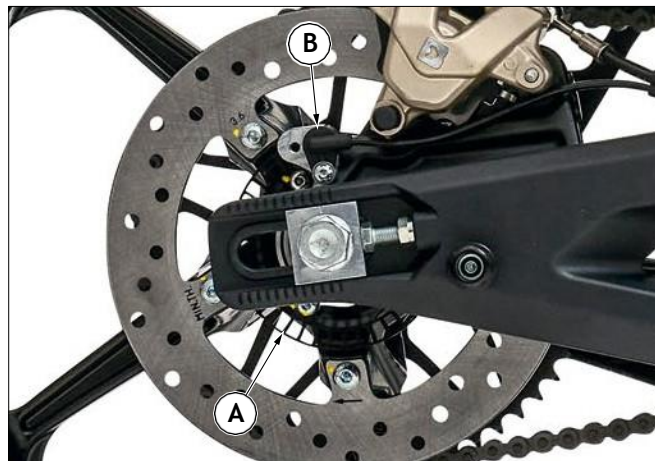
ABSは電子式油圧動作システムで、検出用ホイール（右図A）がロックする状況を右図Bのセンサーが検出することにより、ブレーキシステムに与えられた油圧を制御してホイールがロックすることを防ぎます。

このシステムは一般的なブレーキシステムと比較すると、車両の安定性を増し、転倒などのリスクを低減することが可能になります。

⚠ ABSは車体やタイヤが持つグリップの限界を超えるものではありません。適切な速度で走行し、天候や路面の状態に気を配って走行することはライダーの責任です。ABSは車両の正しくない操作や、走行時の判断ミスから守るものではないです。

⚠ バッテリーにトラブルが生じた場合、ABSシステムは機能しません。

⚠ 時速5km/h以下の速度内では、ABSは作動しません。低速域でのブレーキには十分に注意を払ってください。とりわけ、グリップの低いような状況では注意すること。



お使いいただくにあたり

 このABSはホイール上に設けられたセンサーによって、フロントのみ、もしくは前後両方のホイール（ブレーキ）に対して作動します。正しくABSシステムを作動させるには、常にセンサーリングを清潔にし、ピックアップとの距離が正しく規定値に収まっていることを点検する必要があります。点検や調整は、必ずお買い求めのファンティック正規販売店にお申し付け下さい。

ABSコーナリングシステム（オプション）

 **ABSコーナリングシステムはオプションとしてご購入いただき、ファンティック正規販売店のみがIMUのセットアップも含めて作業することが可能な仕組みです。**

このABSシステムは、『コーナリング』機能を装着することにより、車両が旋回中であっても、ABSの機能を発揮できるものです。車両の状態や路面のコンディションによるグリップの範囲内である限り、旋回中のブレーキングによるタイヤのスリップやロックを検知し、安全性を担保しようという仕組みになります。

このシステムは、『STREET』モード下でのみ起動可能です。

パッセンジャーシートの取り外し

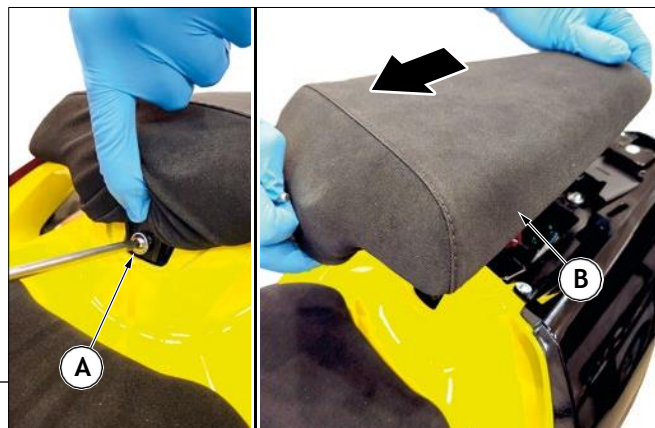
パッセンジャーシートの取り外しには：

- 車両をサイドスタンドで立てます。
- シート下にある、右図のAのスクリューを外して下さい。

 **本スクリューの規定締結トルク：**
3 Nm (0.3 m·kgf, 2 ft·lbf)

- パッセンジャーシート（B）をライダー側にスライドさせ、取り外します。

 **走り出す前に、必ずリアシートが正しく取り付けられているか、確認すること。**



パーキング

停止させる場所については十分に注意してください。よく目配りし、交通標識や、下記の事項に注意すること。

-  車両を壁に立てかけたり、地面に倒したりするのは駐車ではありません。安定した水平面にサイドスタンドで立てましょう。
-  高温になる可能性のある部品(マフラー、エンジン、ラジエーター、ディスクローターなど)が周辺的环境や通りすがりの一般の方に迷惑とならないように注意しましょう。
-  車両を放置して離れないこと、また、メインキーを刺したままマシンから離れないこと。

車両を盗まれないために：

メインキーを刺したままにせず、またハンドルロックを行っておくこと。車両の保管にはできるだけガレージもしくはセキュリティで規制された場所に保管しましょう。車両の登録証や納税証明書は車両と分けて保管しましょう。

サイドスタンド

-  走り出す前に、サイドスタンドが完全に格納されていることを確認して下さい。サイドスタンドに自分自身や同乗者の体重をかけないようにしてください。

サイドスタンドはフレーム左側にあります。車両をまっすぐに保持し、左足でサイドスタンドを出す/仕舞ってください。

サイドスタンドには、イグニッション・サーキットブレーカー・システムが装備されています。これは：

- クラッチレバーを握らずにギアを入れたりサイドスタンドを払ったりしてもエンジンがかからないように
- クラッチレバーを握った状態でぐあは入っていても、サイドスタンドが格納されていない場合、エンジンはかかりません。
- ギアが入っていてサイドスタンドがおろされると、エンジンは停止します。

-  この仕組みはサイドスタンドスイッチをイグニッション・サーキットブレーカーの一部とし、エンジンを停止させることが目的です。

-  サイドスタンドが正しく機能しているか、点検すること。異常があればファンティック正規販売店に相談を。

お使いいただくにあたり

荷物

Ad車両に荷物を積載すると、車両のバランスが変わり運転に支障をきたすことがあります。荷物の搭載にあたっては、なるべく重心に近づけて搭載すること、確実に固定すること、ハンドルバーやフォーク、マッドガードやナンバープレートホルダーには荷重をかけないこと。荷物の搭載が不安定だと、オートバイの安定性が損なわれるほか、とりわけコーナリング時のハンドリングに大きな影響を及ぼす可能性があります。大きすぎる荷物の搭載はなるべく避けましょう。また、荷物を適正な位置に搭載し、灯火類や警告灯などを画面を隠したりしないように十分注意しましょう。

サイレンサー

サイレンサーには三元触媒が搭載されています。これは排気ガス中の一酸化炭素を参加して二酸化炭素に変換。未燃焼の炭化水素を水蒸気に変換し、窒素酸化物を還元して酸素と窒素に分解する役割を持っています。

① 走行中はエキゾーストシステム中のキャタリストシステムが高熱化し、明るい赤色に変色します。このこと自体は全く問題はなく、またキャタリストが正しく作動していることを示して示しているのです。

⚠ 乾燥した枯れ木の近くなどに車両を停止しないように注意してください。

⚠ 子供や歩行者を避けて停車すること。

⚠ サイレンサーは高温になります。どのような形であれ十分に冷えたと感じるまでは十分注意してください。

⚠ 排気システムをモディファイしたり、加工、改造することは一切認められていません。

⚠ 有鉛ガソリンは使わないこと、内容物がキャタリストを痛める恐れがあります。

サイレンサーやエキゾーストパイプに穴が開いていたり、穴が開きそうだったりするなどが無いよう、システムをよく点検すること。システムが正しく動作することを確認すること。通常とは異なるノイズが出ているなど操作には十分気を遣うこと、常にシステムが正確に機能するよう注意すること。

⚠ メンテナンスや修理、交換などについては必ずファンティック正規販売にご依頼ください。

服装について

モーターサイクルに乗る前に、必ずヘルメットを着用し、正しく顎ひもを結んでください。ヘルメットは法規適合の商品で、バイザーやゴーグルが無傷で視界を遮らないことを確認して下さい。プロテクション機能に優れたウェアを着用し、無用なアクセサリがライディングを妨げることが無いように注意してください。明るい色、もしくは反射色/蛍光色の入った衣類を着用することで、視認性が高まり、とりわけ転倒時などにご自身を守ることにつながります。先端のとがったようなものをポケットなどに入れないこと。万が一の転倒時にけがを大きくさせる恐れがあります。

i 同乗者についても同様にご注意ください。

アクセサリー

車両に取り付けるアクセサリーは、ファンティック正規販売店から購入できる純正アクセサリーのみの使用としてください。もし取り付けるアクセサリーが純正品ではない場合、アクセサリーの選択と取り付けの一切はお客さま個人の責任において行っていただきます。また、そうしたアクセサリーであっても以下の点に注意しましょう：

- 周囲の人、環境もしくはライダーご自身に危害を与えないこと
- サスペンショントラベル（ストローク）を規制しないこと
- 灯火類やホーンなどの一部もしくは全部を覆うようなものではないこと
- ステアリングやブレーキ、スロットルといったコントロール類の操作の妨げにならないこと
- ハンドル切れ角を規制しないこと
- コーナリング中のバイクの傾斜角を規制しないこと

大型のフェアリングやウインドシールドは車両の安定性を損なう可能性があります。また、電装系にはファンティック純正部品以外の使用はお勧めしません。電気系の社外アクセサリーは出力を損ねたり、灯火類に影響を与える恐れがあります。

輸送

車両を輸送（トランスポーターなどで搬送）する際には、まず燃料タンク内のガソリンを空にしましょう。車両の揺れなどでガソリンがあふれ出る危険があります。そのほかの油脂類も可能な限り輩出しておきましょう。車両は安定した位置に設置し、ギアを1速に入れ、確実に社内（もしくはコンテナ内）に締結すること。



車両故障などで搬送の必要がある場合でも、牽引などのリスクのある手段を用いてはなりません。周辺環境などに深刻な被害をもたらす恐れがあるほか、車両へのダメージも予想されます。

お使いいただくにあたり

給油

⚠ 給油中に喫煙したり、炎を近づけたり、火花を発する可能性のある電子デバイスを近づけることは禁じられています。これらを守らないと、燃料タンクが爆発し、ご自身や周辺に深刻なダメージを与えることにつながりかねません。

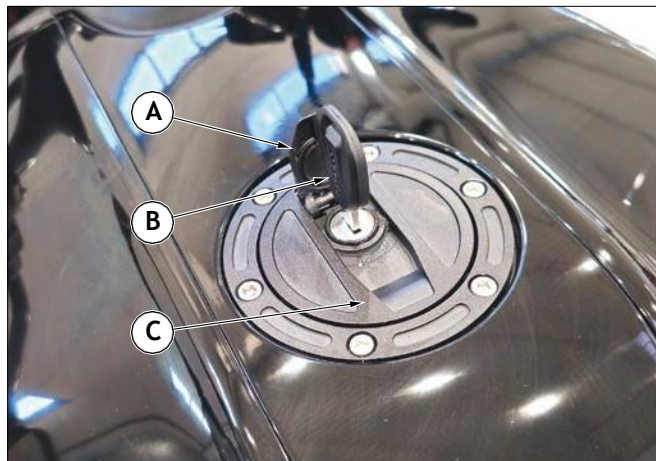
⚠ 給油中に添加剤等をガソリンに加えないこと。

⚠ 給油中、燃料をこぼさないように注意すること。もしファンネル（漏斗）などを用いて給油する場合、タンクや車体にガソリンがかからないよう注意し、万が一の場合は素早く丁寧に拭き取ること。

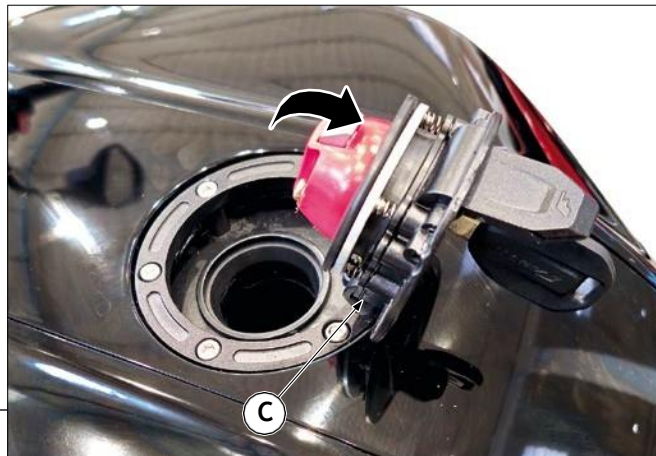
⚠ 推奨品の項目に示されている燃料のみを使用すること。異なる燃料を使用した場合、車両の燃料系統にダメージを与えたり、エンジンのトラブルを引き起こす可能性があります。

給油には、まず右図のカバーAを引き起こします。イグニッションキーBを鍵穴に挿入して右側に回してロックを解除。キャップCを持ち上げ、給油しましょう。給油完了後、キャップCを軽く押し込んで、閉じられたことが確認されたら、キーBを反時計回りに回して再びロックします。

⚠ エンジン始動前に必ず燃料油キャップが閉じられていることを確認して下さい。



JP



車両各部の名称と機能

各部の名称



1. 左側ヘッドライト
2. 左前側方向指示器
3. デジタル・ダッシュボード
4. クラッチレバー
5. 左側集中スイッチ
6. 燃料油キャップ
7. 燃料タンク
8. ライダーシート

9. パッセンジャーシート
10. リア・マッドガード
11. テールライト
12. ライセンスプレートホルダー
13. ライセンスプレートライト
14. 左後部方向指示器
15. 左側同乗者用フットレスト
16. 左側運転者用フットレスト

17. サイドスタンド
18. ギアシフトレバー
19. ラジエーター
20. フロントマッドガード



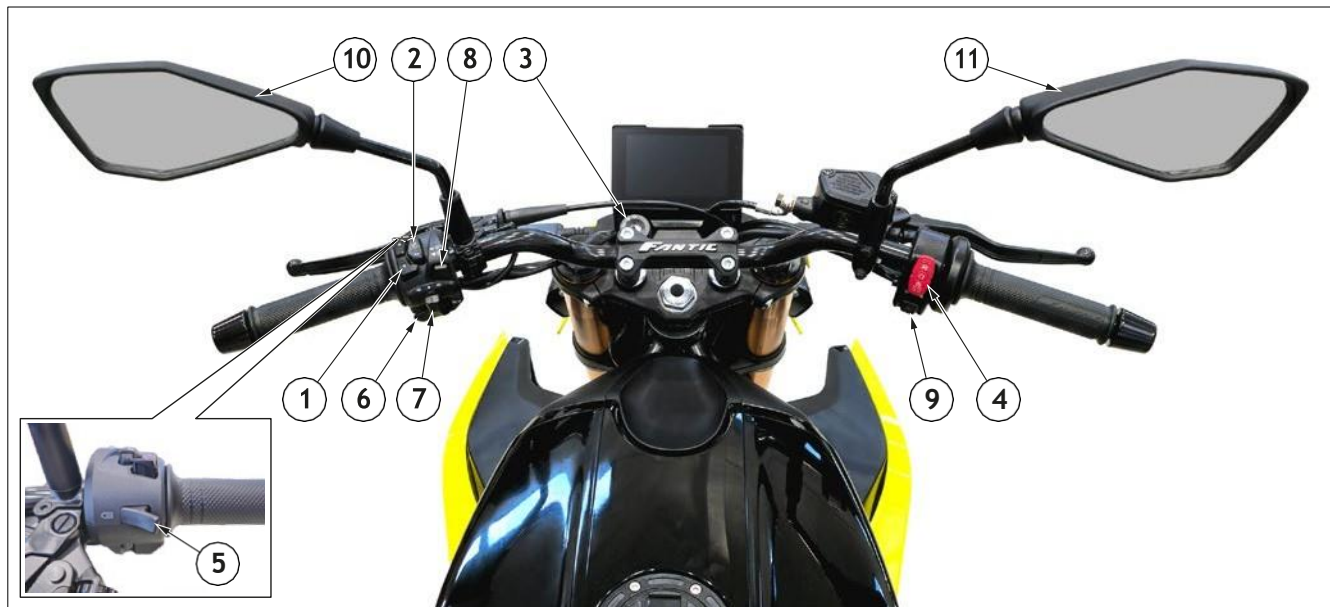
- 21. フロントブレーキキャリパー
- 22. フロントスピードセンサー
- 23. フロントABS検出リング
- 24. タイヤ空気圧およびチェーン遊び量ガイドラベル
- 25. 右側集中スイッチ
- 26. 燃料警告灯
- 27. フロントブレーキマスターシリンダー

- 28. フロントブレーキレバー
- 29. 右前側方向指示器
- 30. エンジンオイルキャップ/ディップスティック
- 31. リアブレーキペダル
- 32. リアブレーキフルードリザーバー
- 33. 右側運転者用フットレスト
- 34. リアブレーキマスターシリンダー
- 35. 右側同乗者用フットレスト

- 36. リアブレーキキャリパー
- 37. リアスピードセンサー
- 38. リアABS検出リング
- 39. 右後部方向指示器
- 40. 右側ヘッドライト

車両各部の名称と機能

操作系



1. ナビゲーションボタン
2. セレクションボタン
3. イグニッションスイッチ
4. エンジンストップ/スタートボタン
5. パッシングボタン
6. ホーンボタン
7. 方向指示器
8. ヘッドライト ハイ/ロー切り替えボタン
9. 非常警告灯（ハザード）スイッチ

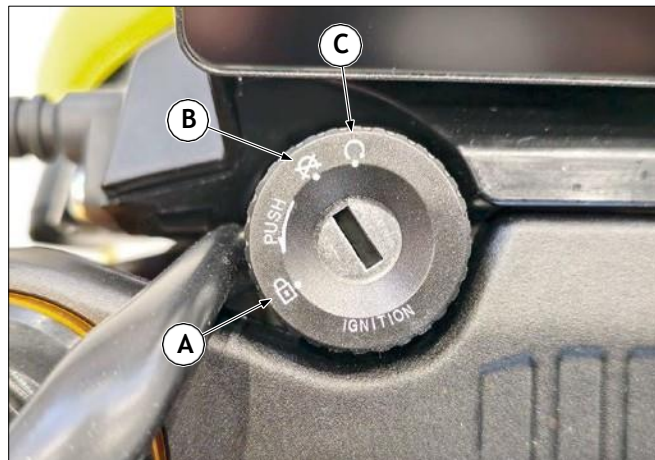
10. 左側後写鏡
11. 右側後写鏡

イグニッションスイッチ

イグニッションスイッチは、車両全部、ダッシュボードのすぐ下側に位置しています。

イグニッションスイッチの機能は以下の通りです：

- A. 車両のハンドルバーはロックされ、車両を動かすことはできません。灯火類もすべて使用できません。キーを引き抜くことは可能です。
- B. 車両の主電源が停止(OFF)状態になります。灯火類もすべて使用できず、エンジンも始動できませんが、ステアリングを左右に切ることとは可能です。キーを引き抜けます。
- C. 車両の主電源がON状態です。キーを引き抜くことはできません。すべての灯火類が使用可能になり、エンジンの始動も可能な状態です。



- ① 車両には2本のキーが付属します。1本はスペアキーとして、車両と一緒にせず安全な場所に保管しましょう。
- ① イグニッションキーがBの位置にある時、灯火類は自動的にOFFになります。
- ① メインキーはイグニッションスイッチのほか、燃料油キャップの開閉、シートの開閉にも使います。
- ① メインキーをONの位置にすると、ポジションライトが自動的に点灯します。エンジンが始動すると、ロービーム・ヘッドライトが自動的に点灯します。

運転のための操作と調整

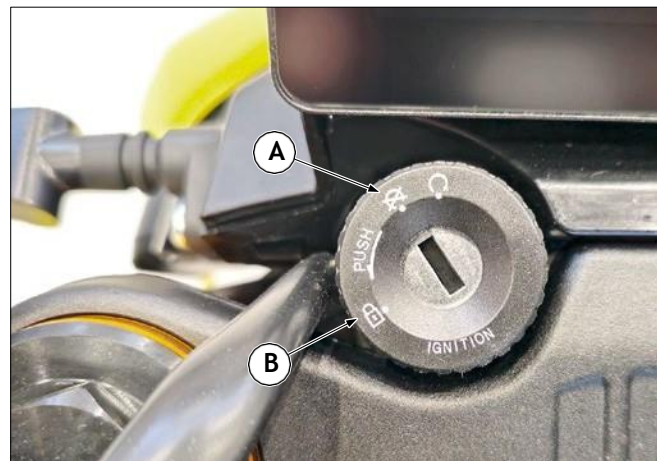
ステアリングロックの方法

イグニッションキーの位置をA（OFF）にします。

サイドスタンドを左足で出し、車両から離れます。

イグニッションキーを押しながら反時計回りに回し、Bの位置にします。ステアリング（ハンドル）バーをゆっくりと左右に動かしながらハンドルロックが収まる位置を探します。

ハンドルロックが固定出来たらキーを離し、抜きます。



エンジン停止ボタン

エンジン停止のため、ボタンを押します。緊急時のエンジン停止スイッチとして使えます。

 車両の走行中にこのボタンでエンジンを止めないこと。突然エンジンを停止させることで、車両の操作が不安定になるばかりか、アクシデントや周囲の人、モノへの加害にもつながりかねません。



スタートボタン

With イグニッションキーがONの位置にあり、ギアがニュートラルでエンジン停止機構のいずれも作動していない場合、このスタートボタンでエンジンは始動できます。



JP

ホーンボタン

ホーンを鳴らすには、図示のボタンを押します。



運転のための操作と調整

ターンシグナル・スイッチ

このスイッチを右または左に動かすことで、それぞれの方向のターンシグナル（方向指示器）が起動します。

スイッチを中央に戻すと、方向指示器は点灯しません。



ロービーム/ハイビーム切り替えスイッチ

このボタンを押すことで、ハイビームが点灯します。

再度押すと、ハイビームは解除され、ロービームが点灯します。



パッシングスイッチ

このスイッチを押すことで、ハイビームを点滅させられます。通常は、危険があったり、緊急事態の時に使用します。

ボタンから手を離すとパッシング機能は解除されます。



非常警告灯（ハザードランプ）

このボタンを押すと、前後左右のウィンカーが同時に点滅し、非常警告灯として機能します。

これにより周辺の運転者たちが緊急事態の発生、あるいは路上に何らかの危険が生じていることなどに気づきます。

ボタンをもう一度押すと、この機能は解除されます。



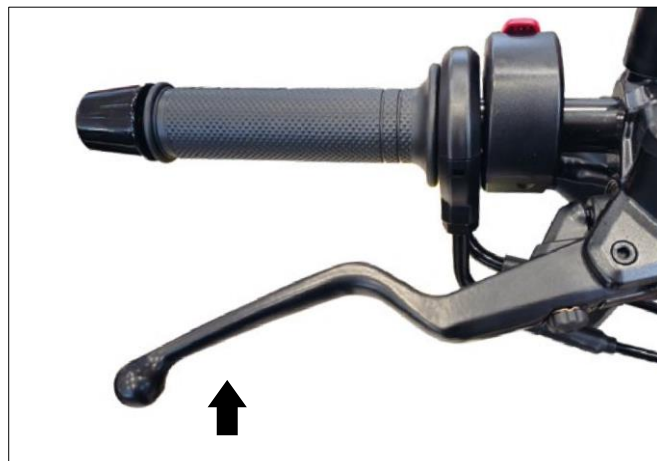
運転のための操作と調整

サスペンション

フロントサスペンション

 フロントサスペンションオイルの交換は、ファンティック正規取扱店で行ってください。

メンテナンス・インターバルについては、メンテナンススケジュールの『フォーク』の項を参照してください。



点検

Aフロントブレーキレバーを握り、ハンドルバーに入力してフォークを縮めます。動作は丁寧に行い、インナーチューブ表面にオイルの痕跡がないことを確認して下さい。

 オイル漏れなど、フォークに異常が見受けられた場合には、ファンティック正規販売店に連絡してください。

調整

このサスペンションは調整不要です。基本的なセッティングはファンティック社で出荷前に行っております。



リアサスペンション

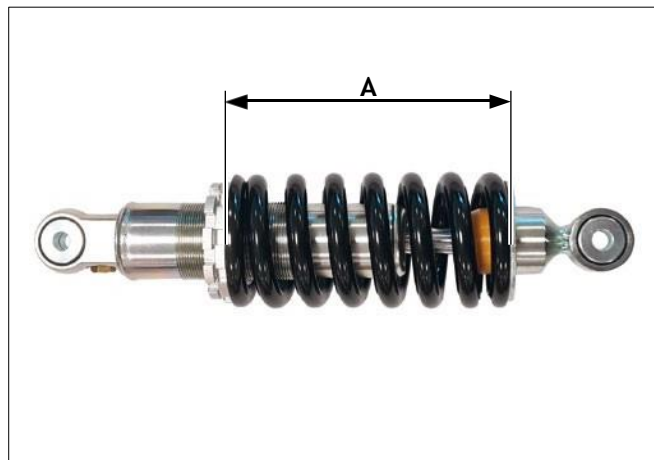
Fメインテナンス・タイミングについては、メインテナンススケジュールの『リアショックアブソーバー』の項を参照してください。

このサスペンションユニットは、上部をフレームに、下部をスイングアームに結合されたショックアブソーバーで構成されています。

プリロード調整

スプリングプリロード（右図A）は基本設定は出荷前にファンティック社が行っています。

 143.5 mm (5.65 in).



 調整に際して十分な知識がない場合は、車両にダメージを与えたり、交通障害を引き起こす前に、ご自身で行わず、ファンティック正規販売店に車両をお預けください。

 この作業を行うには2本のフックレンチが必要です。

路面の状況や車両の積載量に応じて必要が生じた場合は、スプリングプリロードの調整が下記の幅で可能です。

 図示A の幅が最大で: 150 mm (5.91 in).
図示Aの幅が最小で: 137 mm (5.39 in).

 調整前に必ずエンジンが十分に冷えていることを確認して下さい。

運転のための操作と調整

- 2本のフックレンチを使用し、まず図①のリテイニングナットを緩めます。ついでリングナット②を希望する位置まで移動させてください。



ロックナットの外径:

リングナット①: 67 mm (2.64 in).

リングナット②: 63 mm (2.48 in).

- 図示Aのプリロードを必ず測り、限界値内に収まっていることを確認して下さい。
- ①のリテイニングナットを再び締め付けてください。



アジャストリングナットを緩めたり締めこんだりするとき、特段の注意を払うこと、フックレンチを操作する際に車両のほかの部位にあたって傷つけたり、勢い余ってご自身を痛めたりしないことが無いように。

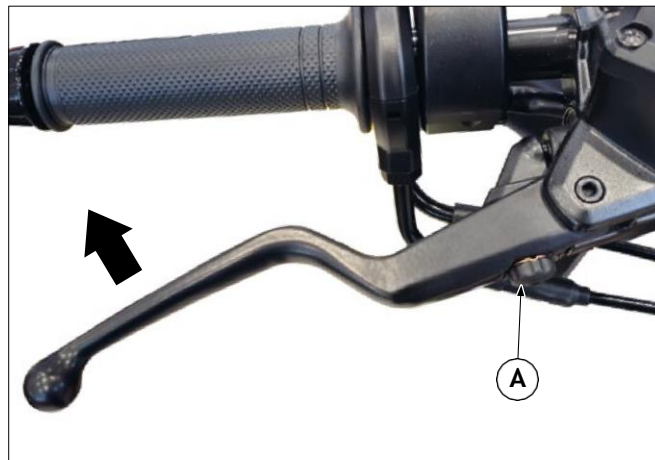


想定されるダメージを避けるためにも、アジャスターを定められた限界値を超えて設定しないこと。

フロントブレーキレバーの調整

Theこのレバーには図示Aのようなアジャスターが装着されています。
これでレバーとスロットルグリップとの間の距離を決められます。

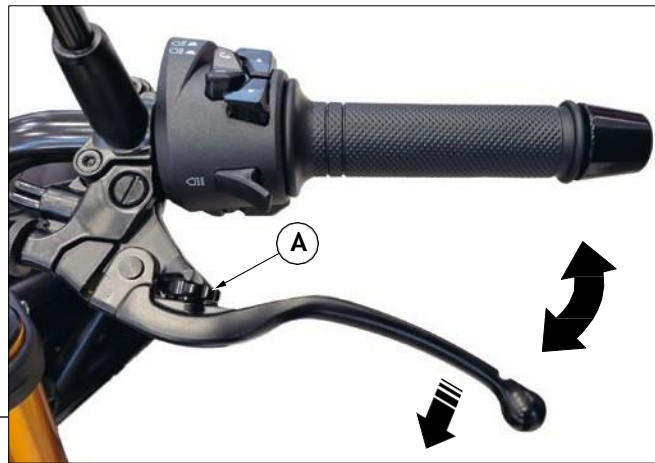
アジャスターナットを時計回りに回すと、スロットルグリップが遠ざかります。近づけたい時はその逆、反時計回りにアジャスターを回転させてください。



クラッチレバーの調整

クラッチレバーにも図示Aのアジャストリングナットが装備され、クラッチレバーとハンドルグリップとの距離を調整できるようになっています。

レバーを外側に押すと、アジャストリングAが回せるようになります。ライダーの好みに応じてこれをどちらかに回転させれば、レバーの位置の調整が可能です。



運転のための操作と調整

ヘッドライト及びターンシグナル

ヘッドライトやテールライト、ターンシグナル等の灯火類の分解、点検、交換等はファンティック正規販売店にお任せください。

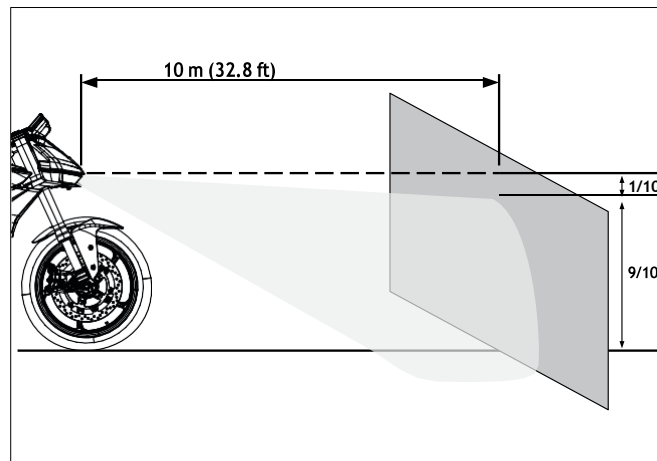
ヘッドライトの調整

- ① 以下の方法はイタリア国内法の定めによるものです。お使いの地域の法規に準拠した調整をおすすめします。
- ① ヘッドライトの調整には2人がかりで行うことが望ましいです。
- ① もしヘッドライト調整を確信をもって実行できないのであれば、ファンティック正規販売店にご相談ください。

ヘッドライトの照射範囲が正しいことを確認するには以下の手順で行ってください：

- タイヤに規定値の空気を入れ、バイクのサドルに1名が座った状態で、水平な路面で垂直にバイクを設置します。バイクを壁に向かって正立させます。
- ヘッドライトの中心が示すべきポイントを壁面にマークします。
- 車両を壁から10m離します。
- 壁面を照らす明かりの中心が、先にマークした位置より10cm低い位置を示すようにヘッドライトを調整します。

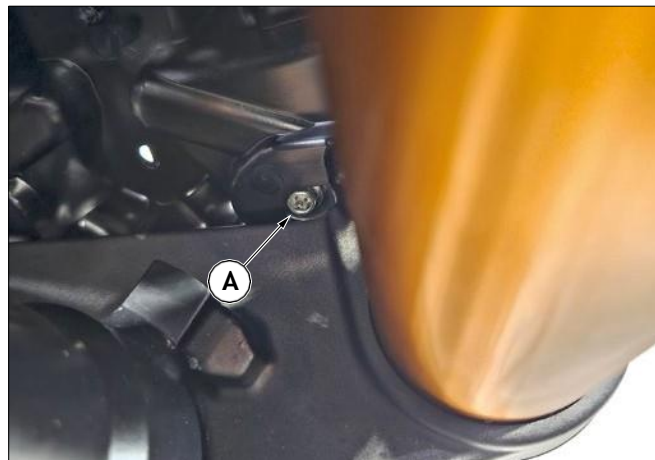
ヘッドライトの位置が正しくない場合、次項の調整に進んでください。



ヘッドライトの調整 (オプション1)

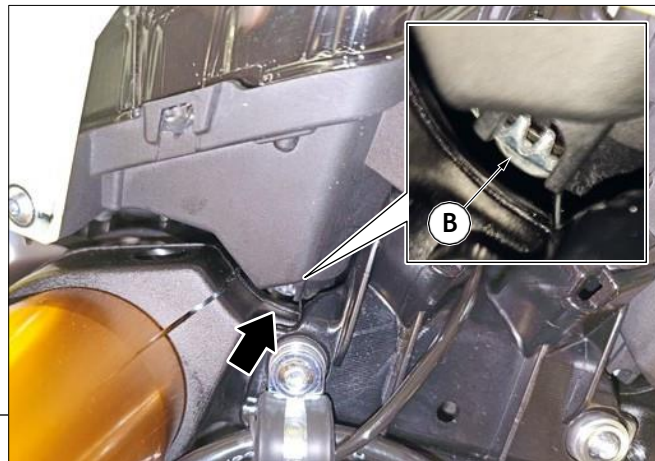
ハンドルバーを左いっぱい切り、ヘッドライト右側後部にある、右図Aの調整スクリューを用いて、ヘッドライトの位置調整を行います。

スクリューを回し、照射範囲が理想的になるよう調整します。続いて、ハンドルバーを右に一杯きり、同様に左側ヘッドライトのアジャストスクリューを用いて調整します。こちらも右側同様に正しい照射位置になるまで調整してください。



ヘッドライトの調整 (オプション 2)

ヘッドライト下部にある、右図のBのアジャストリングを調整します。フィリップスドライバーを挿入し、アジャストリングを回転させて理想の照射範囲になるように調整します。



運転のための操作と調整

後写鏡

後写鏡の取り外し

- ① 以下の説明は左右どちらにも共通するものである。

車両を平面の安定した路面にサイドスタンドで立てます。

右図Aのロックナットを緩め、ミラーを反時計回りに回して取り外します。

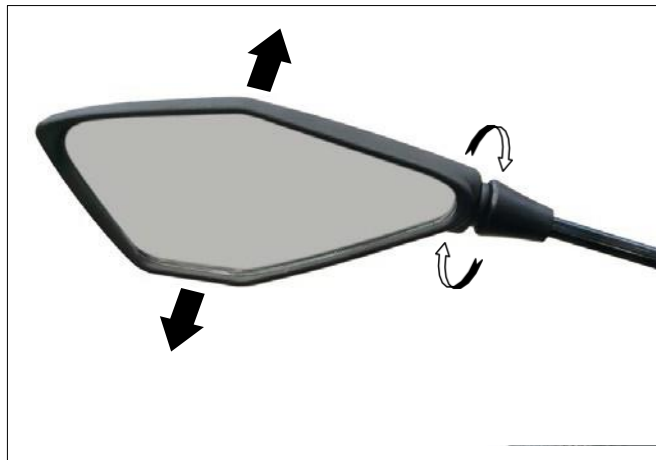
- ① 再装着に際し、ナットで締める決前に、ミラーのサポートロッドがハンドルバーと平行であることを確認して下さい。



後写鏡の調整

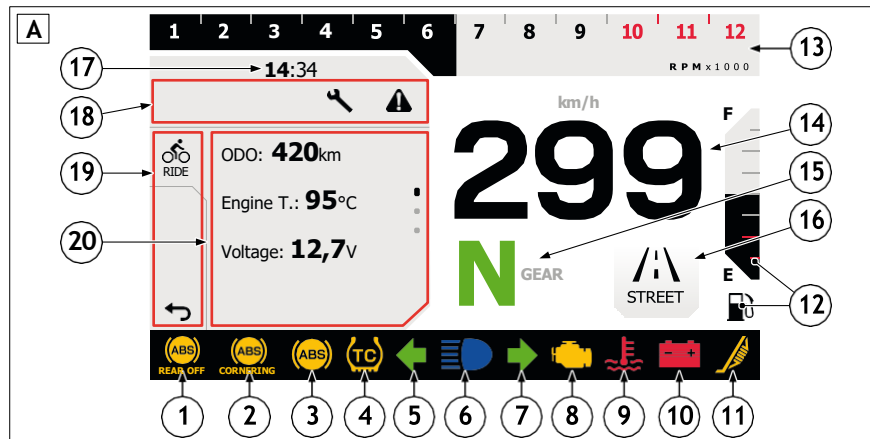
- ① 以下の説明は左右どちらにも共通するものである。

車両にまたがり、ライディングポジションをとってください。後方がよく見えるよう、キチンと調整してください。.



デジタル・ダッシュボード

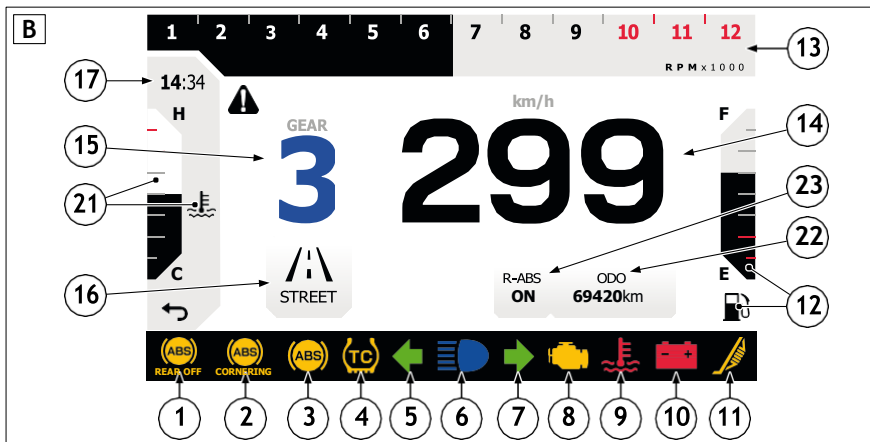
- A. フルディスプレイモード
B. 『レース』ディスプレイモード



1. ABSインジケータライト (橙)
2. ABSコーナリングインジケータライト (橙)
3. ABS稼働状況表示灯 (橙)
4. トラクションコントロール表示灯 (橙)
5. 左側方向指示灯 兼 非常停止灯 (緑) I

6. ハイビーム警告灯 (青)
7. 右方向指示器 / 非常警告灯 (緑)
8. 機能不全警告灯 (MIL) (橙)
9. 水温警告灯 (赤)
10. バッテリー電圧警告灯 (赤)
11. サイドスタンド警告灯 (橙)

12. 燃料残量表示
13. エンジン回転速度計
14. スピードメーター
15. ギアポジションインジケータ
16. ライディングモード表示
17. 時計
18. 通知領域
19. インフォメーション表示/マルチメディア表示
20. 主要情報表示 (インフォメーションウィンドウ)
21. 冷却液温度表示
22. オドメーター
23. リアABSの動作状況



ダッシュボード

アンチロックブレーキシステム（ABS）インジケータ

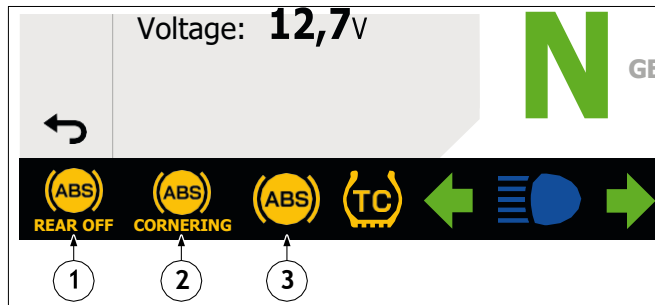
イグニッションキーを  ON の位置に回すと、5秒間、すべてのダッシュボード上のライトが点灯します。続いて、ABS警告灯（右図③）がゆっくりと点滅します。ここでシステムが自己点検を行い、完了すると消灯します。

もし『No ABS Communication』（右図下左）の表示がインフォメーションウィンドウに出た場合、ABS関連のすべてのインジケータ（右図①②③）が点灯します。

- ① **まずはイグニッションキーで主電源のオン/オフを行ってください。状況が変わらない場合、ファンティック正規販売店でABSのシステムに異常がないか点検を受けてください。**

もし上記以外のABSシステムに関連する異常が検知された場合、ABS警告灯（右図③）が高速で点滅します。

-  **もしABSシステムの機能異常が検知されたら、状況に十分に注意を払いながら、速やかにファンティック正規販売店に連絡し点検並びにシステム異常の修復を受けてください。**



図示①のABS リア OFFインジケータの点灯は、リアABSがキャンセルされている（オフロードモード）ことを示しています。

- ① オプションのIMUが装備されている場合、リアホイール側のABSがキャンセルされていると、コーナリングABSも自動的にキャンセルになります。この時、図の②のインジケータランプも点灯します。

-  **リアABSをキャンセルしないライディングモードなのに図の①が点灯した場合は、状況に十分に注意を払いながら、ファンティック正規販売店に連絡し点検並びにシステム異常の修復を受けてください。**

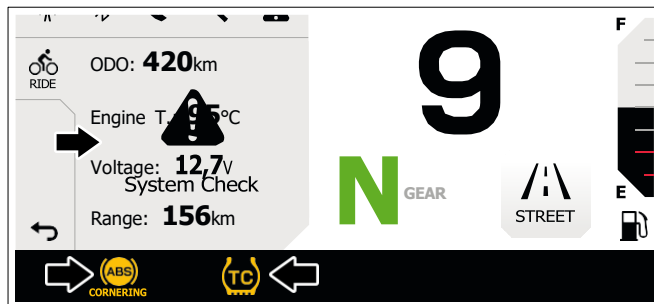
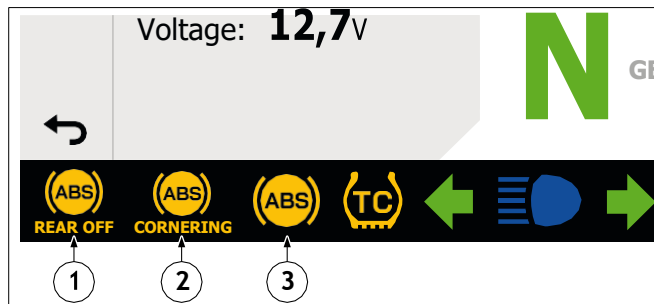
ABS Corneringインジケータ②の点灯は、システムの異常、もしくはECUソフトウェアの仕様違いの可能性があります。いずれもインフォメーション・ウィンドウ上に"Cornering ABS Inactive" の表示が示されます。

①『コーナリングABS』はオプションで用意されており、『IMU』キットを車両に搭載する必要があります。

⚠ 万が一ABSシステムの全部もしくは一部に異常がある場合でも、車両は従来のブレーキシステムを使用することが可能です。安全な速度に落とし、お買い求めのファンテック正規販売店にご連絡ください。

エンジンコントロールユニット（ECU）内のプログラムエラーが発生した場合、車両全体のシステムに異常が及ぶ可能性があります。こうした場合、『System Check』というメッセージが表示され、右図のように『ABS CORNERING』と『TC(Traction Control)』インジケータライトが点灯状態になります。

⚠ 『System Check』の表示が出たら、速やかにお買い求めのファンテック正規販売店に連絡を取り、車両の点検を受けてください。



ダッシュボード

サイドスタンド・インジケータライト

サイドスタンド・インジケータライトは、サイドスタンドが格納されていない時に表示されます。この時、ギアが入っている状態の場合はインジケータは表示され、エンジンは自動的に停止します。ギアがニュートラルの場合、サイドスタンドが出ていてもエンジンは停止しません。

① エンジン始動、走行開始前にサイドスタンドを格納しましょう。

エンジン警告灯（MIL）

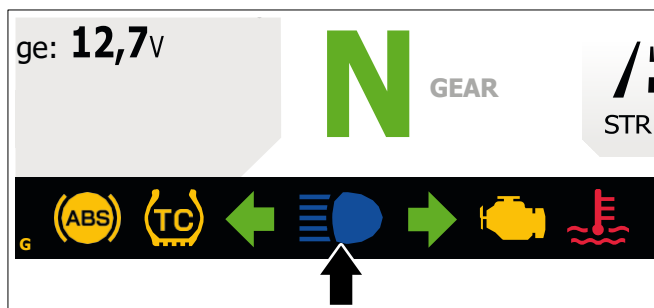
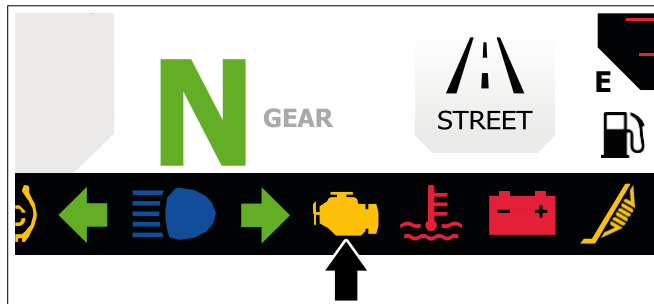
『MIL』ことエンジン警告灯は、システムがエンジン又は電装系に異常を検知すると点灯します。点灯した場合は速やかにお買い求めのファンテック正規販売店に連絡してください。

⚠ 警告灯が点灯したまま走行を続けることは、エンジンにダメージを与えたり、環境への影響を及ぼしたりする恐れがあります。

ハイビーム表示灯

ハイビーム表示灯は、ヘッドライトのハイビーム点灯時に表示されます。この表示灯でライダーに長距離を照らすべき状況を示し、また交通が集中していたり対向車がある場合には点灯しないよう促します。

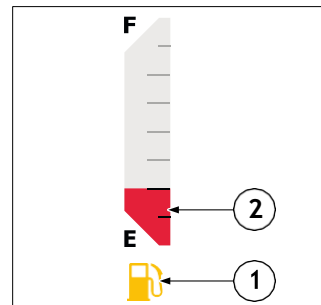
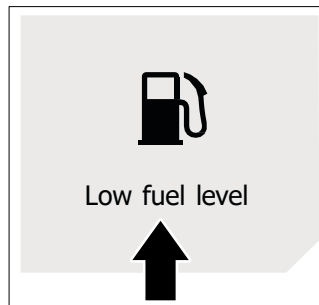
① 他の運転者を幻惑しないためにも不必要な時にはハイビームを用いないこと。



燃料残量警告灯

When the 燃料の残量がゲージの下から2段目まで減ると、ゲージ下の警告灯（右図①）が橙色に点灯し、また燃料レベルインジケーターが赤になり、さらにインフォメーション・ウィンドウに『Low Fuel Level』と表示されます。警告灯は燃料が補充され次第消灯します。

 警告灯が点灯したらなるべく速やかに給油しましょう。

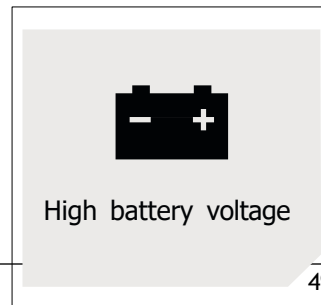
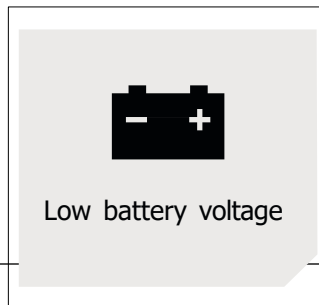


バッテリー電圧警告灯

バッテリー電圧警告灯は、バッテリーの電圧が低すぎる、もしくは高すぎるときに点灯します。検知された異常により、下記の関連するメッセージがインフォメーションウィンドウに示されます：

- 電圧が低い場合：『Low battery voltage』のメッセージ
- 電圧が高すぎる、もしくは異常な場合：『High battery voltage』

 これらのメッセージが出た場合、速やかにお買い求めのファントミック正規販売店に連絡を取り、バッテリーの点検もしくは交換を行ってください。



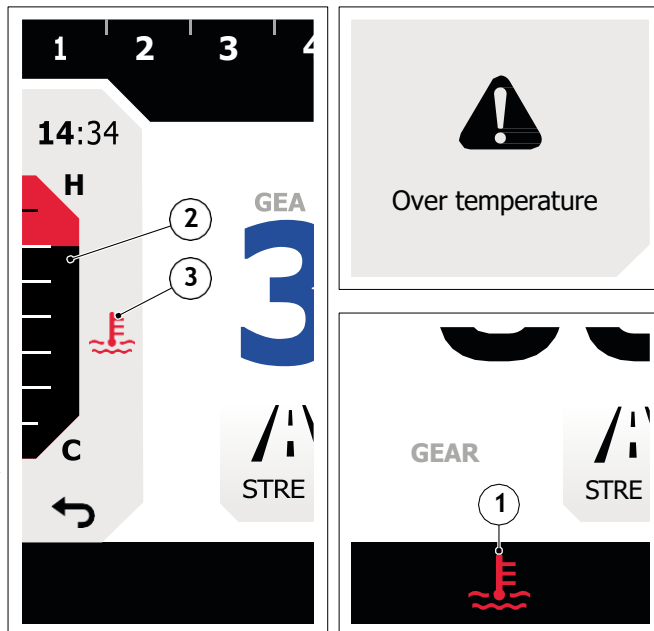
ダッシュボード

冷却液温度表示灯

冷却液温度警告灯（右図①）が点灯し、インフォメーションウィンドウに『Over temperature』が表示されると、冷却液温度が102℃（215°F）に達したことを示します。

- ⚠ 警告灯点灯時には、速やかに車両を止め、エンジンを停止し、その後の車両へのダメージが広がらないようにしましょう。
- ⚠ 冷却液（クーラント）の水位を点検し、また十分にエンジンが冷えてから再始動してください。
- ⚠ 現象が続く場合、速やかにお買い求めのファンティック正規販売店に連絡し、点検を受けてください。

『RACE』ディスプレイモードがアクティブな時は、冷却液温度ゲージ（右図②）が表示されます。冷却液温が危険なほど高い場合、ゲージの上限2メモリが赤く表示され、右図③のインジケータライトが赤く表示されます。



通知領域（P45A図の⑱）のアイコンについて

通知領域には以下のアイコンが表示されることがあります。

JP

アイコン	アイコンの意味	対応
	次のサービス時期（メンテナンス時期）が到来しました	メンテナンススケジュールを確認して下さい。
	一般的な警告	56ページに記載の『Notification center』を確認して下さい。

ダッシュボード

ダッシュボード・コントロール

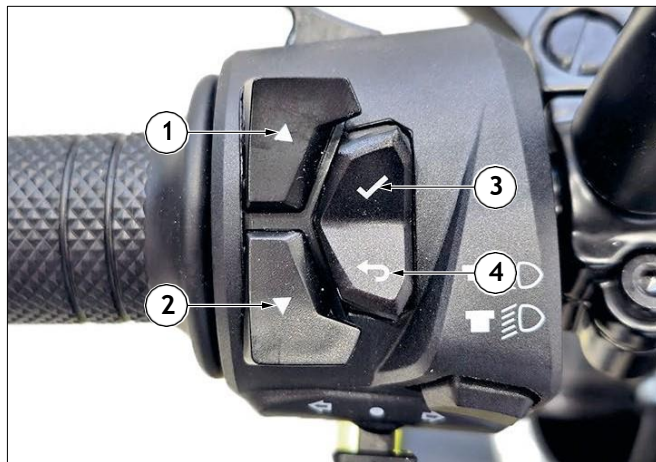
イグニッションスイッチを右に回し、『ON』  の位置に合わせます。車両の電源が入り、すべてのモード/表示灯が暫時点灯します。



左側集中スイッチボックスに、デジタル・ダッシュボードの操作スイッチが用意されています。

- ① カーソル/表示を上に進めます“UP” ▲
- ② カーソル/表示を下に送ります“DOWN” ▼
- ③ セットボタン“SET” ✓
- ④ 前項に戻る“BACK” ↶

UP および **DOWN** ボタンはメニューのナビゲーションに使用し、**SET** および **BACK** ボタンはメニューの下でのセッティングの選択、キャンセル等に使います。

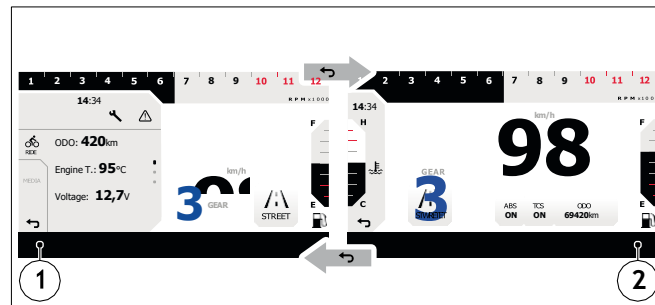


ディスプレイのモード選択

ダッシュボードは2種類の表示の選択が可能です：

1. Full (フル) モード (標準)
2. "RACE" モード

表示モードの選択は **BACK** ボタン  を押すことで可能です。



ライディングインフォメーション・メニュー (RIDE)

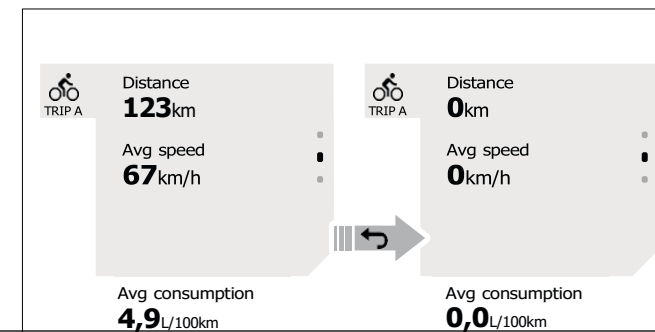
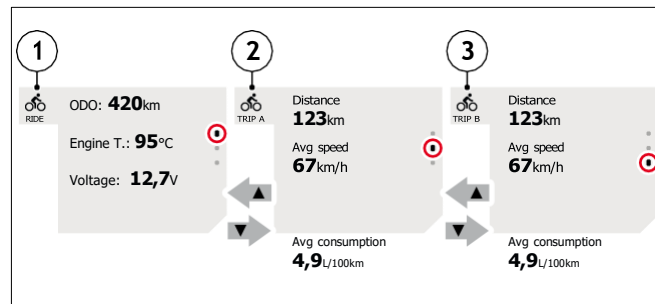
フルモード選択時、表示される情報のすべてに以下の操作でアクセスすることが可能です。

インフォメーションウィンドウをスクロールするには、**UP ▲** または **DOWN ▼** ボタンを押してください：

1. "RIDE"メニューでは総合的な情報を示します：
 - ・ オドメーター
 - ・ エンジン温度 (冷却液温度)
 - ・ バッテリー電圧
2. "TRIP A"メニューではトリップ計Aで記録された情報を表示します：
 - ・ 区間走行距離
 - ・ 区間平均速度
3. "TRIP B"メニューではトリップ計Bで記録された情報を表示します：
 - ・ 区間走行距離
 - ・ 区間平均速度

表示のセットはそれぞれのメニューで**BACK** ボタン  を長押しします。

- ① この情報はイグニッションスイッチがONで  通常のライディング中に表示されます。



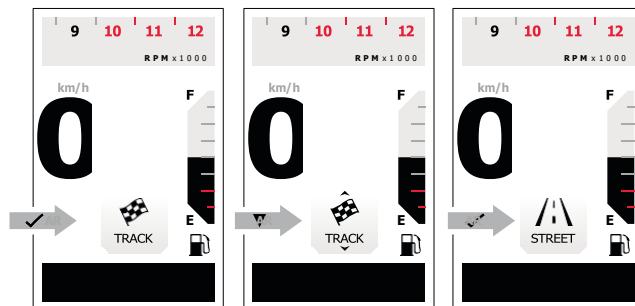
ダッシュボード

ライディングモードの選択

以下2つのライディングモードの選択が可能です：

- "STREET" (ストリート) (既定値)
- "TRACK" (トラック)

 ライディングモードの選択、変更には車両が静止状態である必要があります。



操作は以下の手順で行います：

- **SET**  ボタンを押し、ライディングモード選択が可能な状態にします。
- 選択のための矢印が上下に表示されたら、**DOWN**  ボタンを押し、いずれかのモードを選択します。
- **SET**  ボタンを押し、選択したモードを確定させます。

 ライディングモードの変更後は、車両が完全にそのモードに入るまで数秒間お待ちください

ライディングモード		ABS	ダッシュボード上の表示
STREET	 STREET	アクティブ	メッセージなし インジケータライトの点灯なし
TRACK	 TRACK	リアABSは起動しない "コーナリングABS" オプションも起動しない (*)	"ABS Cornering inactive" の表示(*) "ABS Rear" および "ABS Cornering" 警告灯 の点灯 (*)

 注意 (*)：『IMU』キットを搭載したオプション車のみが適合します。

- ① モード変更のたびに、ダッシュボードはシステム内の点検を行います。



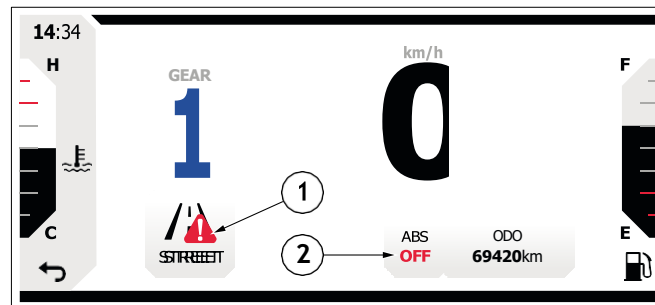
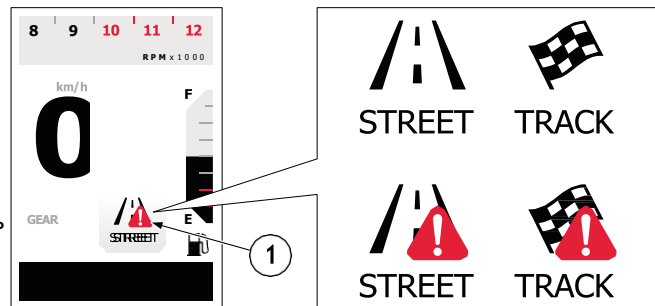
モード表示が警告サイン『!』付になった場合、そのモード内でエラーないしは異常が発生している恐れがあります。

- ① RACEモードでは、モード表示の警告 1 に加え、赤でエラー表示領域 2 にも警告を示します。

異常が生じた時には、モードのリセットを試してください。エラーが続く場合は、車両全体の電源を切り、暫時再び電源を投入し、ライディングモードのセットを再試行してください。



ライディングモードの異常が続く場合、安全装置の一部に異常が発生している可能性があります。細心の注意を払って走行し、可及的速やかにお買い求めのファンティック正規販売店に連絡して点検を受けてください。



ダッシュボード

セッティングメニューへのアクセス

ダッシュボードのセッティングメニューには以下の手順でアクセスします：

- 車両を静止させます；
- イグニッションキーを **ON** () に(ダッシュボード点灯)；
- SET ボタン  を長押し。

続いて、**UP**  および **DOWN**  ボタンを選択することで目的のメニューに入り、**SET**  ボタンでアイテムを選択します。

BACK  ボタンの長押しでセッティングメニューから戻れます。

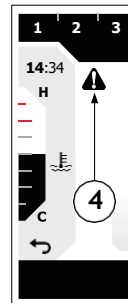
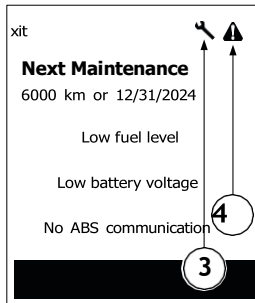
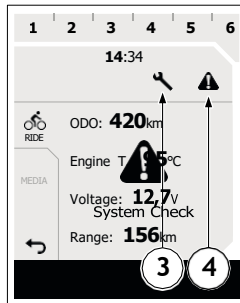
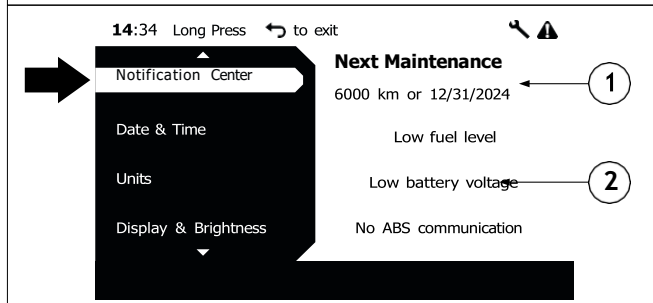
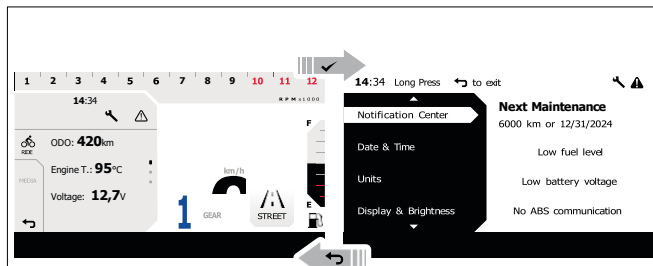
通知領域『Notification Centre』

ここでは次のメンテナンスまでの走行距離や期間を確認し（右図①）、また過去にさかのぼって直近3回分の警告メッセージを概覧できます（右図②）。

① エラーメッセージを構成する問題が未解決の場合、ダッシュボードを再始動してもそのメッセージは『通知領域』に継続して表示されます。

次回メンテナンスまでの走行距離がすでに超過していたり、期日が過ぎている場合は、メンテナンスシンボル（右図③）が表示され、通知領域上でも確認できることになります。

① 警告メッセージが発生している場合、警告シンボル（右図④）が通知領域に表示されます。



時刻表示

右図示の『Date & Time』メニューで、以下の順に日時が設定できます：

- 時
- 分
- 日
- 月
- 年
- 24時間表示 (ON/OFF).

SET ✓ bボタンを押して日時の設定に入ります。

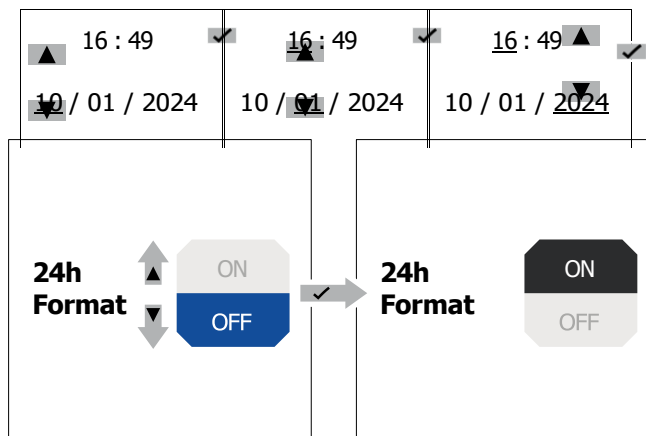
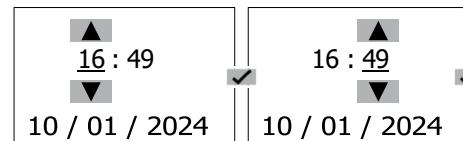
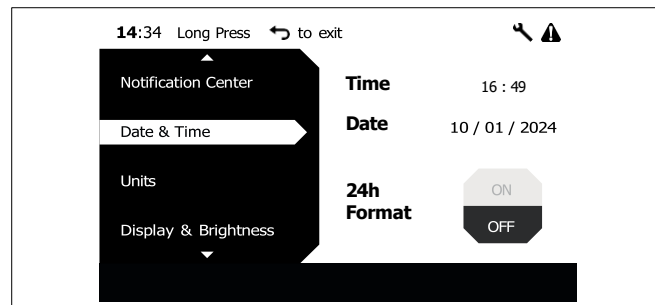
UP ▲ および **DOWN ▼** ボタンを押して表示をスクロールさせ、

SET ✓ ボタンで確定します。これを時、分…の順に繰り返し行います。

① **UP ▲** および **DOWN ▼** ボタンの長押しで表示が自動スクロールします。

一番最後に **UP ▲** または **DOWN ▼** ボタンで24/12時間表示を選択し、**SET ✓** ボタンを押して確定させ、日時設定を完了します。

- **ON** = 24時間表示
- **OFF** = 12時間、AM/PM表示



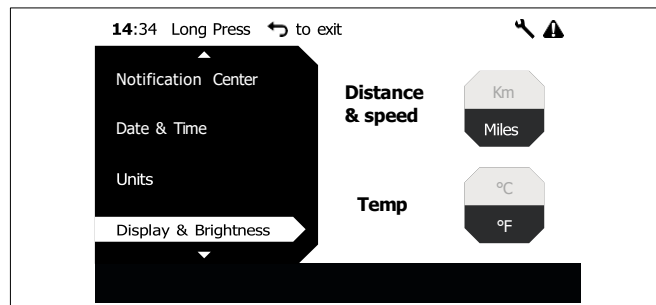
ダッシュボード

Units (単位)

このメニューでは、以下の順にセットが可能です：

- 距離及び速度表示の単位 (マイル/キロ)
- 温度表示の単位 (摂氏℃/華氏°F)

SET ✓ ボタンを押し下げ、設定モードに入ります。

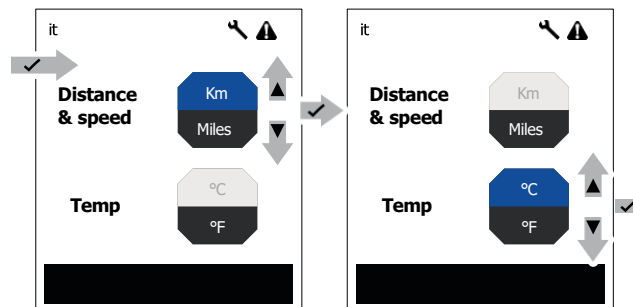


UP ▲ または **DOWN ▼** ボタンを押し、希望する単位を『Km (キロメートル)』または『Miles (マイル)』から選択して、

SET ✓ ボタンで確定させてください。

続いて温度表示も"°C" (摂氏)または"°F" (華氏)から選択し、

SET ✓ ボタンで確定させてください。



Display & Brightness (表示と明るさ)

このメニューでは、ダッシュボードのグラフィックデザインと、ディスプレイの照度を調整できます。

グラフィックデザインは以下の3種類から選択できます：

- 自動 ("Auto")
- ライト ("Light")
- ダーク ("Dark")

i 自動を選択すると、実際の日夜を判断してテーマ（グラフィック）を適宜変更したり、合わせてディスプレイの明度も調節してくれます。

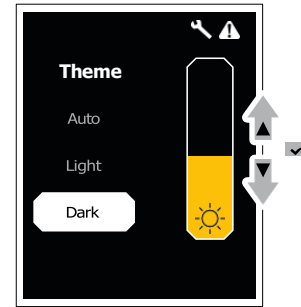
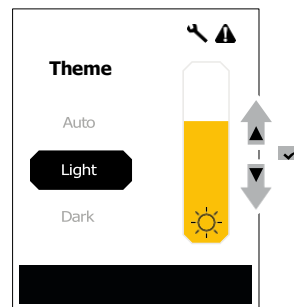
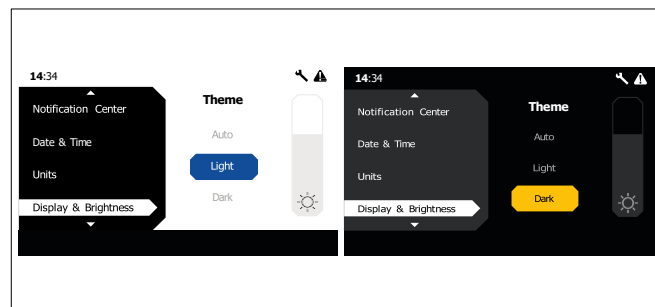
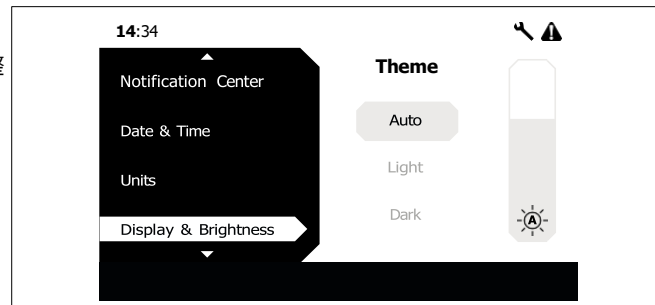
SET ✓ ボタンを押してダッシュボードの明度調整を行います。

i "Light" もしくは "Dark" のテーマを選ぶことで、それぞれの明度を調整可能になります。

UP ▲ または **DOWN ▼** ボタンを押して、希望するテーマを選択して、**SET ✓** ボタンで確定させてください。

"Light" または "Dark" テーマを選択後、ディスプレイの明度調整を行ってください。

UP ▲ または **DOWN ▼** ボタンを押して、希望する明度になるまで調整して、**SET ✓** ボタンで確定させてください。



ダッシュボード

ディスプレイ上の警告やエラーメッセージについて

ダッシュボードには車体のセンサーからの情報が集中し、車両上に発生したくなる異常にも迅速に対応できるよう、リアルタイムで警告やエラー表示が行えるようになっています。

インスタント・メッセージの表示

ダッシュボードでは関係するインスタント・メッセージを右図①に表示します。レースモードの場合は右図②の中央に警告が表示されます。
表示されたメッセージは **SET**✓ ボタン、あるいは **BACK**↶ ボタンで消去できます。

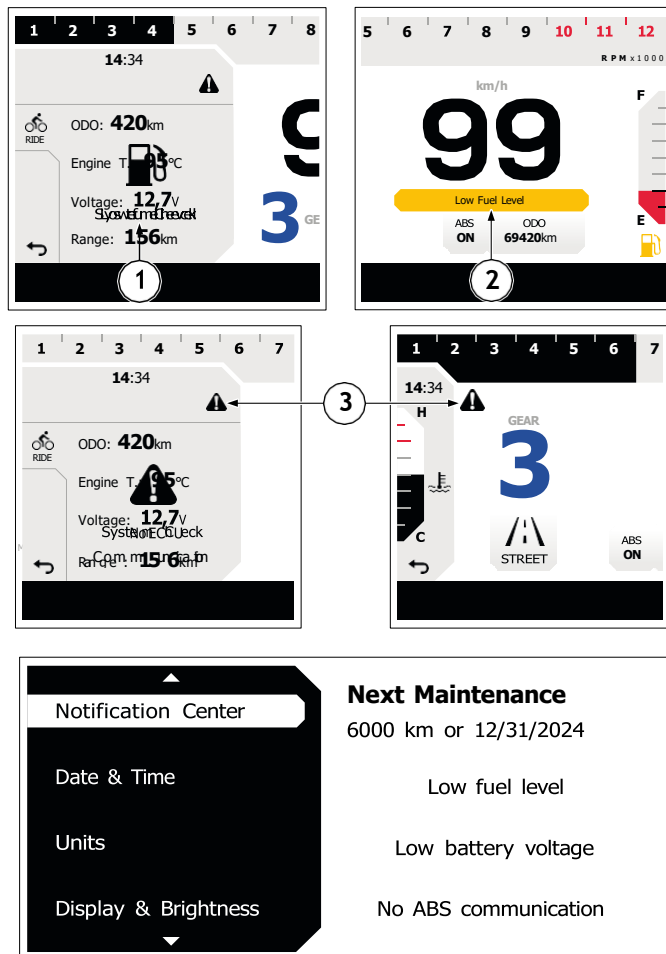
警告アイコン

ダッシュボード上にインスタント・メッセージが表示されると、右図③の警告マーク⚠ が表示され、エラー状態が継続していることを示します。

通知領域「Notification Centre」での表示

- ⚠ ダッシュボードに報告されたメッセージは、この通知領域に、直近の3つのメッセージのみ、時系列に格納されます。
- ⚠ 過去に報告されたエラーは、その原因が解決されない限りメッセージセンターの中に残されています。

ライダーはメッセージを通知領域で確認することができます。通知領域の操作は56ページに説明している通りとなります。



エラーメッセージ一覧

メッセージ	原因	解決方法
System Check (システムチェック)	車両の『 ECU 』ソフトウェアのエラー	十分に注意しながら走行し、お買い求めのファンティック正規販売店にご相談ください。
No ECU Communication (ECU にアクセスできない)	ECU のエラー	トラクションコントロールが使えない可能性があります。早急にファンティック正規販売店にご相談ください。
No ABS Communication (ABS にアクセスできない)	"ABS" コントロールユニットのエラー	通常のブレーキしか使えない恐れがあります。ファンティック正規販売店にご相談ください。
Cornering ABS Inactive (コーナリングABSが起動しません)	コーナリングABSオプション・エラー	コーナリングABSが作動しない恐れがあります。ファンティック正規販売店にご相談ください。
RUNOFF (キルスイッチ)	キルスイッチが入っています	始動させる前にキルスイッチを戻してください
Low fuel level (燃料残量が少ない)	燃料補給が必要です。	給油しましょう
Over temperature (設定温度を超えています)	エンジン温度が過熱しています	車両を停止させ、エンジンを冷やしましょう。冷却液の量を点検してください。ファンティック正規販売店にご相談ください。
Low battery voltage (バッテリー電圧が不足しています)	バッテリーの電圧が低すぎます	そのまま車両を動かしても構いませんが、早急にお買い求めのファンティック正規販売店に連絡し、点検を受けてください。
High battery voltage (バッテリー電圧が過剰です)	バッテリーの電圧が高すぎます	そのまま車両を動かしても構いませんが、早急にお買い求めのファンティック正規販売店に連絡し、点検を受けてください。

ダッシュボード

エンジンストップ/スタート

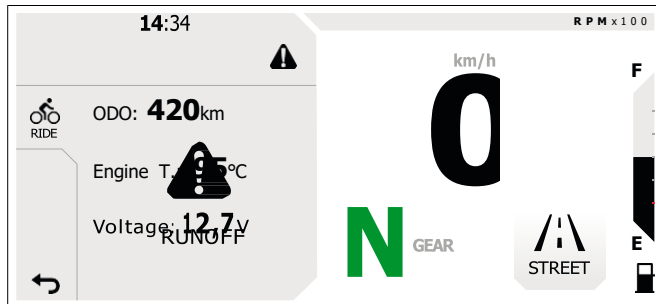
- ① エンジンストップスイッチの使用は、必ず車両が静止している状態で行ってください。走行中にいきなりスイッチでエンジンを切ると、エンジンにダメージを与えたり、周囲への安全性にもリスクがあります。

車両を安全に停止させ、右図①のエンジンストップスイッチ（キルスイッチ）を押してください。メインインフォメーションには"**RUNOFF**"が表示されます。



- ② 車両が "**RUNOFF**" モードにある時は、デジタル・ダッシュボード上のセッティング変更が可能になります。

車両を制止させ、エンジンスタートスイッチ（右図②）がセットされると、メインインフォメーション上の "**RUNOFF**" が消えます。



通常のメンテナンスについて

定期的なメンテナンスは重要です

大切なオートバイを守り、安全に走行し、期待されるパフォーマンスを発揮させ、また故障から守り、環境を保護していくためにも、正しく車両をメンテナンスすることは重要です。ここで示すような点検項目を乗車前に必ず行うことはユーザーの義務であり、車両に不必要な異常を発生させないためにも怠らないようにしましょう。

JP

 車両に異常、不具合があった際には必ずお買い求めのファンティック正規販売店に連絡してください。

 正しくないメンテナンスや、乗車前の修理が完全ではない場合、重篤なけがや死亡事故につながるかねないアクシデントを誘発する恐れがあります。本マニュアルで提示されている定期点検を行い、また走行前点検を必ず行うことで、車両のトラブルを避け、ひいてはライダーやパッセンジャーの安全を守ることもつながります。

 ご自身が十分な整備知識や必要な工具をお持ちでない場合は、こうした作業はファンティック正規販売店にお任せください。

 技術上のアドバイスや作業が必要な場合、ファンティック正規販売店にご連絡ください。

定期的なメンテナンスにあたっての安全上の規定

 ① 車両の作業に入る前に、必ず定期点検の指示をよく理解すること

メンテナンスに入るときには、以下のガイドラインを遵守してください：

- エンジンを停止し、メインキーは取り外すこと
- 車両は安定した水平面に停止させ、サイドスタンドもしくはメンテナンススタンドを用いて自立させること
- 火傷等を防止するためにも、エンジンやサイレンサー、ブレーキなど高温になる部位は作業前に十分冷ましておくこと

 こうした注意事項を守らないと作業者は深刻な負傷を負ったり、車両にダメージを与える恐れがあります。

 ファンティック・モーター社が販売する純正部品を使用してください。そのためにも、ファンティック正規販売店と密に連絡してください。純正部品は信頼性と安全性に長けています。社外の部品を用いることは車両にダメージを与えたり、運転者や同乗者の安全を脅かすことにつながりかねません。

通常のメインテナンスについて

オーナーが行うべき作業を十分確認すること

- ① ここでリスト化する点検間隔（距離）はあくまでも指標です。想定外の使用やヘビーユーザーは車両の使用前に必ず視認点検を行い異常がないことを確かめてください。

部品/部位	やるべきこと		走行前毎回	500 km走行 ごと	1500 km走行 ごと	長期間使用予 定がない場合	長期間使用せず、再 び使用する場合
灯火類、ウィンカー、ホーンなど	- 動作確認	-	✓				
クラッチレバー	- 動作、遊びの確認	p.78	✓				
ブレーキシステム	- ブレーキフルードの液量点検	p.72		✓			
	- ブレーキパッドの残量点検	p.73			✓		
	- ブレーキシステムの点検	p.74	✓				
エンジンオイル	- オイルレベルの点検	p.65		✓			
冷却液	- クーラントレベルの点検	p.70		✓			
ドライブチェーン	- 摩耗状況の点検	p.75		✓			
	- 伸びや遊びの点検						
	- 注油及び洗浄	p.76		✓			
車両全体	- 洗車	p.87		✓		✓	
バッテリー	- 端子の取り外し、取り付け	p.82				✓	✓
	- ターミナルの洗浄	p.83					✓
タイヤ	- 空気圧の点検	p.67		✓		✓	✓
	- ダメージの点検、トレッド深さの点検	p.67			✓		

エンジンオイル

⚠ エンジンオイルの消費量や汚れ、消耗などについては、走行条件や時間によって大きく左右されます。その判断はお買い求めのファンティック正規販売店で行い、エンジンオイルやフィルターの交換も併せて依頼してください

⚠ エンジンオイルの点検時には、周囲の高温の部品（エンジンやマフラーなど）に十分注意してください。

⚠ オイルのブランド、グレードを混ぜて使用しないこと。期待される潤滑性能を発揮できなかったり、クラッチを痛めたりする原因になります。「推奨品」のセクションに掲載されている商品をお使いください。

エンジンオイルの点検

① この点検のタイミングや走行距離については、「お客さまに行っていただきたい点検」の項を参照してください。

エンジンを始動し、3～5分程度アイドリングさせる。

エンジンを停止し、2～3分ほど待つ。車両を安全な水平面に保持する。

オイルレベルプラグ（ディップスティック）を反時計回りに回転させて取り外し、清掃する。ディップスティックを再び挿入するが、回転はさせない（ネジ部分までは入れない）。



通常のメインテナンスについて

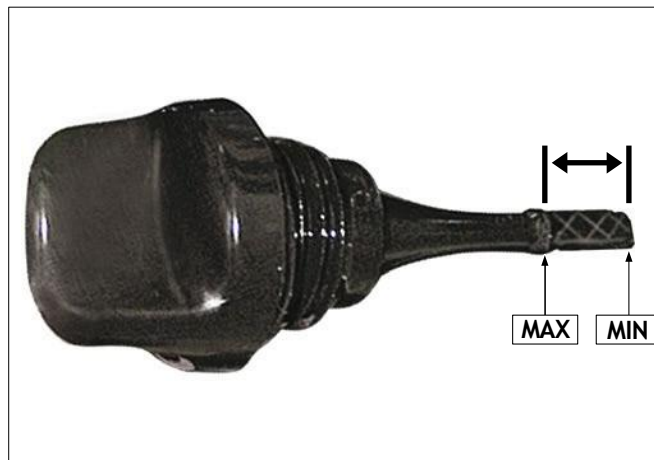
オイルレベルプラグ（ディップスティック）を抜き、点検します。正しいオイルレベルは『MIN』と『MAX』の間にあります。

⚠ オイルレベルが『MAX』以上になったり、『MIN』以下にならないよう注意してください。エンジンに深刻なダメージを与える恐れがあります。

点検後、もしエンジンオイルレベルが『MIN』を下回っていた場合は、推奨エンジンオイルを補充してください。また、『MAX』を上回っていた場合は、お買い求めのファンティック正規販売店に連絡してください。

⚠ オイル補充に際しては、周辺にオイルをこぼしたりしないよう十分注意してください。また、ファンネルや漏斗のような用具を用いて注油する場合、用具が完全に清掃され、汚れや異物などがオイルに混入してエンジン内に入ることが無いよう十分に注意してください。

オイルレベルプラグ（ディップスティック）を確実に締めこんでください。



タイヤ

タイヤのサイズ、空気圧については『テクニカルデータ』の項目を参照してください。

i 以下の点検タイミング等については、『お客さまがやるべき点検項目』の章を参照してください。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧は常温（室温）で行ってください。タイヤの温度が上昇していると正確な空気圧が測定できません。例えば運転後最低3時間程度は時間を置いてからの点検、あるいは最大2kmまでの走行後の点検としてください。

i 空気圧の測定には、正しく調整されたエアゲージを使用してください。

! タイヤのバルブが正しくプロティティブキャップで覆われているかを確認。また、急激な空気圧の減少を避けるためにも正しくバルブが閉じられていることを確認しましょう。

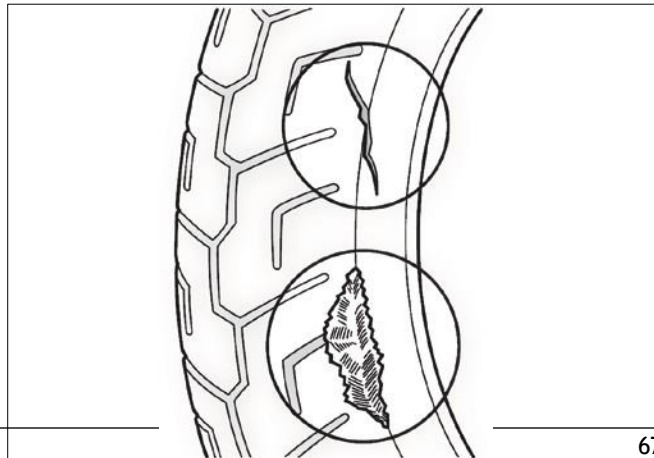
! 正しい空気圧に調整されていないタイヤで走行することは、重大なアクシデントや事故につながる恐れがあります。

トレッド面のダメージや溝の深さの点検

以下の項目を点検しましょう：

- 亀裂がないか
- ひび割れ、裂け目がないか
- タイヤ内部が見えてしまっているような損傷がないか
- 釘などの異物が表面又は側面に刺さったりしていないか
- タイヤ側面に突起が生じたり、ふくらみができていたりしないか

上記のいずれかがみうけられた場合、速やかにタイヤを交換してください。

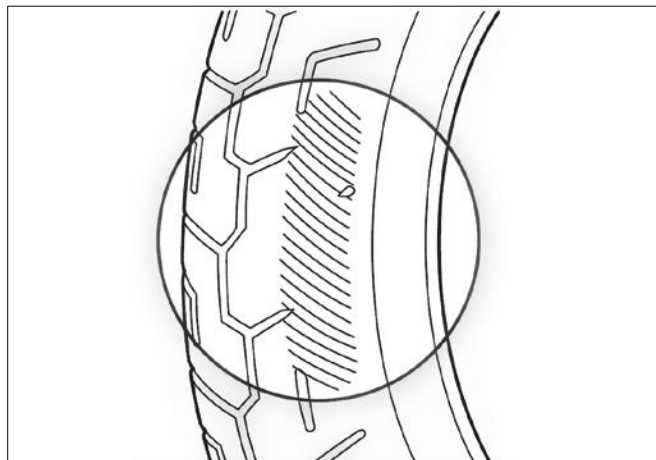


通常のメインテナンスについて

タイヤ表面に異常な摩耗があったり、その兆候がないかを点検してください。

異常が発見された場合、速やかにタイヤを交換してください。

 表面に異常が見られたり、摩耗が進んだタイヤで走行することは、事故や深刻なアクシデントにつながりかねません。

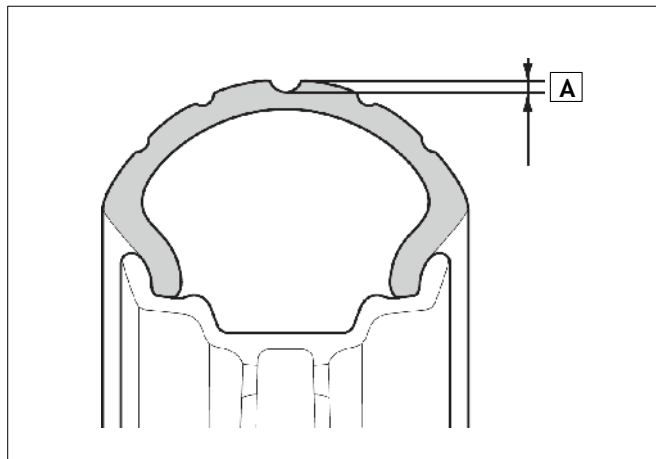


右図『A』で示した深さが下記に示す最低トレッド厚（深さ）を下回らないようにしてください。また、この溝の深さは地域によって規制が異なることがありますので、愛車をご使用の地域の規制に従ってください。

 最低トレッド厚（溝の深さ）：1 mm (0.03 in).

点検後この厚みが担保されていない場合、速やかにタイヤを交換してください。

 十分な溝の深さがなく（上記で定義した厚みを保てていない）タイヤで走行することは、事故や深刻なアクシデントにつながりかねません。



通常のメンテナンスについて

 **タイヤの交換、修理やメンテナンスは、正しい工具を用いて、また必要な経験を積んだ方が行ってください。従って、通常はお買い求めのファンティック正規販売店に依頼していただく方が間違いありません。**

JP

 **推奨タイヤ、もしくは同等品の同じ寸法、構造、速度表示及び耐荷重のタイヤを使用してください。正しくないタイヤへの交換は、車両の操縦性や安定性を損なうことにつながります。これはまた、身体に深刻なダメージを与える事故やアクシデントを引き起こしかねません。必ず本マニュアルに掲載のあるサイズ、および推奨のタイヤをお使いください。**

 **新品のタイヤは滑りやすいフィルムで覆われています。交換後最初の数キロメートルはこのフィルムを剥がすためにも十分注意して運転してください。推奨されていないケミカル等によるタイヤ表面への洗浄等はおやめください。年月を経たタイヤは表面が硬化し、摩耗していなくても所定の能力を発揮できないものです。必ず定期的に交換してください。**

 **車両に装着されているタイヤはチューブレス仕様で、アルミホイールに装着されています。チューブタイヤを同じように装着し、インナーチューブを使用することが無いようお使いください。**

通常のメインテナンスについて

冷却液（クーラント）

① 以下の点検のための間隔、期間については、「お客さまに行っていただく点検について」をご参照ください。

⚠ クーラント（冷却液）のレベルが下限以下の場合、車両を使用しないこと。

クーラント（冷却液）レベルの点検

⚠ クーラントレベルの点検はエンジンを切り、またエンジンが冷えた状態で、車両を垂直に保持して行うこと。

クーラントが『MAX』と『MIN』の間に位置しているか点検する。

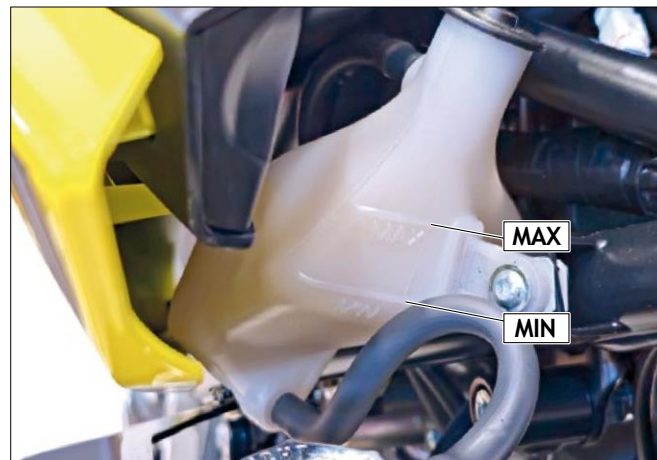
クーラントの補充

クーラントレベルが『MIN』以下の場合、以下に従って補充してください：

- クーラントタンクからキャップを外す
- クーラントを『MIN』と『MAX』の間になるように補充する

♻ 推奨品：エチレングリコールベースの不凍液であること

⚠ 不凍液がない場合は蒸留水（もしくは水道水）を代用し、速やかに
お買い求めのファンテック正規販売店で点検並びに交換を行うこと。



通常のメンテナンスについて

- キャップを締める
- エンジンを始動し、1分以上運転させたのちに止め、クーラントレベルを再点検する。

 クーラント交換は、お買い求めのファンティック正規販売店にて行ってください。

JP

 クーラントレベルが継続的に減り続けたり、タンクが空になってしまうような場合は、車両の冷却システムのどこかで漏れが生じている恐れがあります。速やかにお買い求めのファンティック正規販売店に連絡し、適切な点検を受けてください。

通常のメンテナンスについて

ブレーキシテム

- ① この項の点検を実施すべきタイミングや間隔については、『お客さまに行っていただきたい点検』のセクションを参照してください。

フロントブレーキフルードの液量の点検

フロントブレーキフルードの液量の点検には、車両をまず垂直に保持し、ハンドルバーを切ります。ブレーキフルード・リザーバー内のオイルがキャップと平行になるようにして、点検窓から液面がミニマムレベル（下限）以上にあることを確認して下さい。

- ⚠ 液面が下限に達していない場合、お買い求めのファンティック正規販売店に連絡しましょう。

リアブレーキフルードの液量の点検

リアブレーキフルードの液量の点検には、車両をまず垂直に保持し、ブレーキフルード・リザーバータンク内の液面がキャップと平行になるようにします。液量が『MAX』と『MIN』の間にあることを点検してください。

- ⚠ もしフルード・レベルが『MIN』に達していなかった場合、お買い求めのファンティック正規販売店に連絡し、適切な処置を受けてください。

ブレーキフルードの補充

- ⚠ ブレーキフルードの補充は、お買い求めのファンティック正規販売店で行ってください。



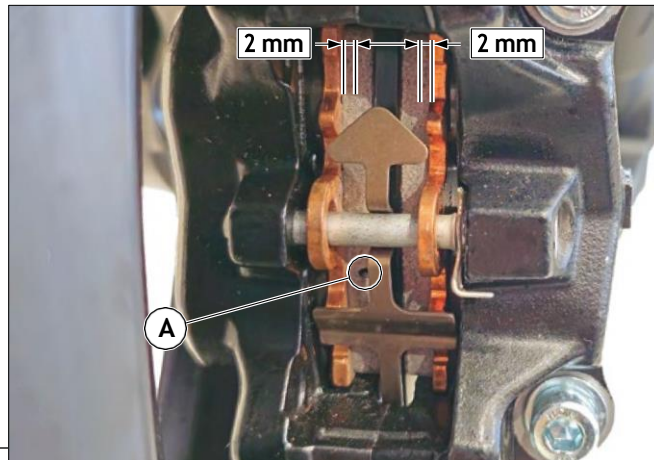
ブレーキパッドの摩耗の点検

- ⚠ 車両のブレーキ力が落ちていたと感じたら、ブレーキパッドの点検を行うこと。
- ① ブレーキパッドの損耗は使い方や路面コンディションによって異なります。
- ⚠ パッドの限界値以上の損耗は、パッドメタルシュー（摩擦材を張り付けている金属製のパッドベース）を直接ディスクローターと接触させてしまうおそれにつながります。これは金属製のノイズ（異音）を生じさせ、またキャリパーから火花を発生させる可能性があるほか、ブレーキの利きも悪化し、ひいてはブレーキディスクにも損傷を与えることとなります。

フロントブレーキパッド

キャリパー背面の点検窓から、パッドの損耗の目視点検を行います：

- 右図Aに示されたパッドの損耗限界を超えないよう
 - 摩擦材の厚みが2mm以上残されていることを点検
- いずれの場合も、必要に応じてパッドを2枚とも交換すること。



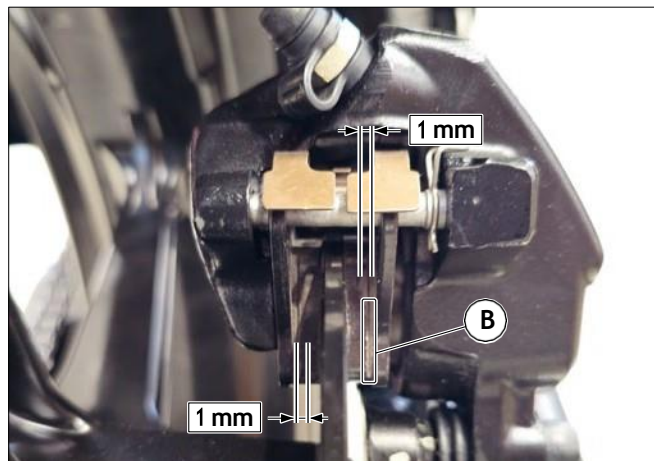
通常のメンテナンスについて

リアブレーキパッド

キャリパー背面からパッド損耗を目視点検する：

点検窓から確認し、

- 右図Bに示された摩耗限界が確認できること
 - C摩擦材の厚みが1mm以上あること
- いずれの場合も、必要に応じてパッドを2枚とも交換してください



ブレーキシステムの点検

ブレーキによって異常な動きやフィードバックがないことを点検：

- ブレーキレバーを引いたり、ペダルを踏み込んだ時に、性的な状態で異常がないことを点検する。

遊びに異常がないか点検する：

- ブレーキが効き始めるまでのレバーやペダルの移動量（遊び）が多すぎないか点検する

ブレーキのタッチの点検：

- 操作中、変にぐんにやりとした感触になったりしないかを点検する。

 上記の様な点検で異常を感じた場合、速やかにお買い求めのファンティック正規販売店にて点検を受けて下さい。

ドライブチェーン

① この項の点検を実施すべきタイミングや間隔については、『お客さまに行っていただきたい点検』のセクションを参照してください。

チェーンの摩耗、たるみ、スプロケットの摩耗を点検する

① これらの点検はファンティック正規販売店での実施を推奨します。

以下の点検を実施してください：

ホイールのゆるみがなく、右図①のアクスルナットが適切に締め付けられていることを確認。

ドライブチェーン（右図②）の損耗状況を点検。ローラーの損耗がないこと、またリンク部分に以下の異常がないことを確認：

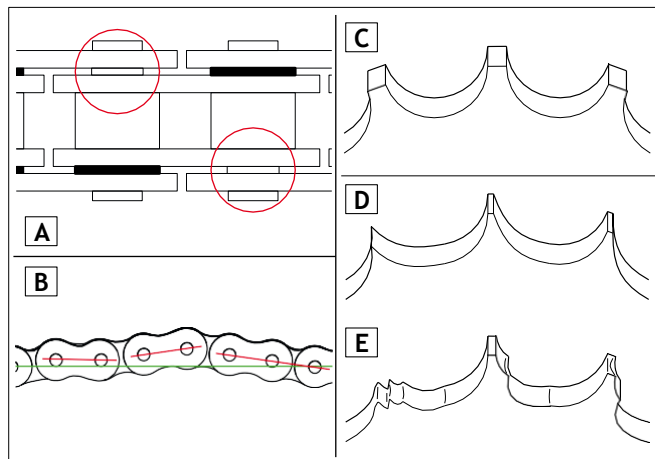
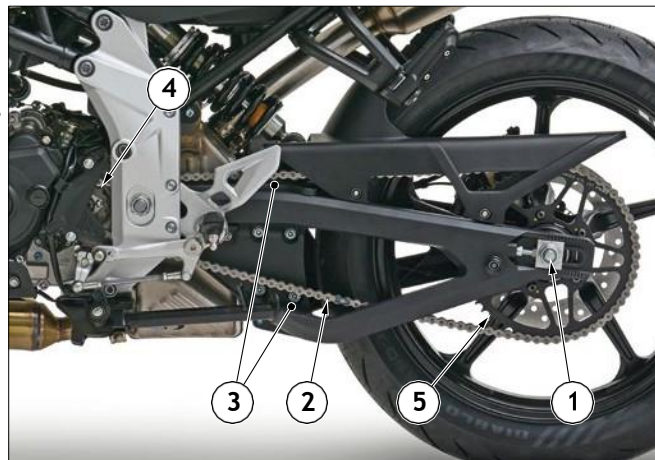
- ・ 乾燥（潤滑不足）
- ・ 錆
- ・ 損傷など
- ・ ひきつれているなど（右図B参照）

オイルシールの喪失（右図A参照）も点検のこと。

右図③のチェーンスライダーの損耗状況を点検。

右図④および⑤のスプロケットやチェーンリングの損耗状況の点検：

- ・ 歯先がよい状態にあること（右図C）
- ・ 摩耗しすぎ、交換する状態（右図D）
- ・ 歯先の損傷（右図E）



通常のメンテナンスについて

⚠ 上記の部品の一つあるいは全部が損傷していたり損耗が激しい場合は、お買い求めのファンティック正規販売店に連絡し、チェーンアッセンブリー一式（チェーン、スプロケット前後）を発注、交換してください。

⚠ 正しいメンテナンスを行うことで、チェーンの摩耗や損傷は最小限に抑えることが可能です。

清掃及び注油

⚠ チェーンは常によく洗浄され、適切に注油されていること。特に泥や砂の多いオフロード走行後は十分に注意すること。

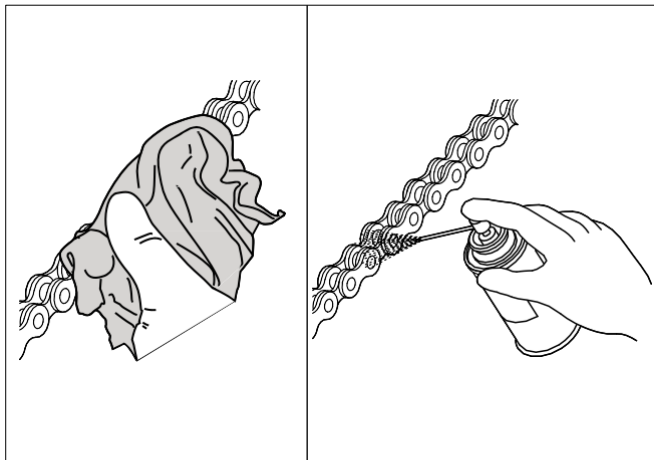
⚠ チェーン清掃にあたっては、高圧水流や蒸気流などを使わず、またワイヤーブラシでこすったり、揮発性の高い液体で洗浄したりしないこと。

チェーンが汚損した場合、清潔な布に天然素材の洗剤を使用して洗浄してください。必要に応じて柔らかいブラシを使用しても構いません。

洗浄後、乾燥させたのち、推奨油脂で注油すること。

① もし手元に正しいメンテナンス用具や油脂がそろわない場合、又はユーザー自身が注油や線上に自信を持ってない場合は、お買い求めのファンティック正規販売店にメンテナンスを依頼してください。

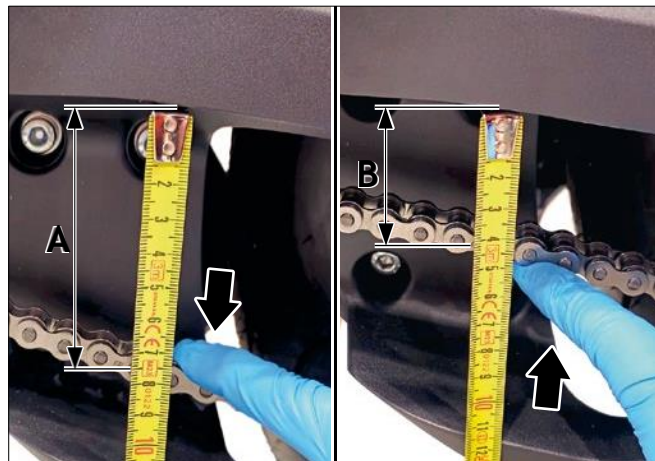
① チェーン洗浄剤や油脂類については、『推奨品テーブル』の項を参照してください。



通常のメンテナンスについて

チェーンのたるみの点検

- ⚠ 必要以上のチェーンのたるみ、伸びはチェーンがスプロケットから外れ、事故につながったり車両に重大な損害を与える可能性があります。
- ⚠ チェーンの交換や遊びの調整は、お買い求めのファンテック正規販売店にご用命ください。
- ⚠ 場所によって異常な遊び（たるみ）が見られる場合、チェーンリンクの固着や損傷が疑われます。この場合はお買い求めのファンテック正規販売店にご連絡ください。
- ⚠ 固着を避けるためにも、正しい注油を定期的に行うことが大切です。



チェーンの遊び（たるみ）の点検は、以下の手順で行ってください：

- エンジンを停止し、ギアはニュートラルに入れること。
- 車両を垂直に立てること（パドックスタンドなどを使用すること）。
- リアホイールを回し、同時に指でチェーンを下から上方向に持ち上げ、遊びが最小となる個所を探します。
- サイドスタンドで車両を立て、荷重がかからない状態で自立させてください。
- 先に決めた遊びが最小となる箇所（張力が最大となる箇所）を指で押し、上図のようにチェーンを押し下げた位置でのスイングアーム下端部との距離Aと、同じく押し上げた位置Bでの距離を測定します。
- AとBの差がチェーンのたるみです。これが30mm～35mmの間に収まるようにします。
- チェーンの動きをよく点検し、スムーズに動かない箇所がないか、あるいはチェーンを回転させて測定すると上記のたるみが規定値内を超えることが無いかを点検してください。

通常のメインテナンスについて

クラッチレバーの遊び調整

⚠ この調整にあたって十分な経験や知識をお持ちでない場合は、車両へのダメージや安全性に影響を及ぼさないためにも、お買い求めのファンテック正規販売店にご相談下さい。

⚠ クラッチレバーの遊びは必ず規定値内に収めてください。これが守られないと車両の操作に問題をきたしたり、エンジンにダメージを与える恐れがあります。

⚠ クラッチの遊びが少なすぎると、エンジンに損傷を与える恐れがあります。

レバー側の調整

クラッチレバーの遊び調整は、エンジンが突然異常に停止したり、ギアが入っているときにクラッチレバーを引いているにもかかわらず車両が動き出そうとしたり、クラッチが滑っていてエンジン回転が上がっているのに車両の動きとリンクしなかったりした場合に行いましょう。

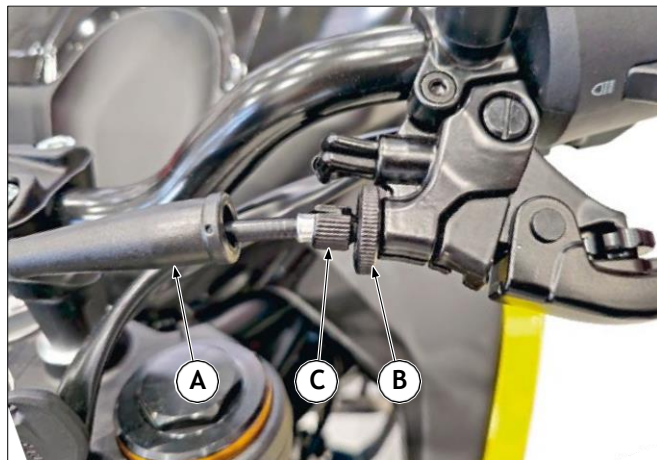
⚠ 以下の調整はエンジンが冷えているときに行うこと

クラッチレバーの遊びの調整は、以下の手順で行います。

- クラッチワイヤー保護カバー『A』を外す。
- リングナット『B』を緩めます。
- 調整中にはハンドルバーを正面に向けて保つこと。
- アジャスター『C』を回転させ、クラッチレバーの遊び『D』を調整する。

🔧 **クラッチレバー遊び『D』: 10 mm (0.39 in).**

- リングナット『B』を締めこみ、『C』で調整した位置が動かないようにする。
- 保護カバー『A』を元に戻す。



エンジン側の調整

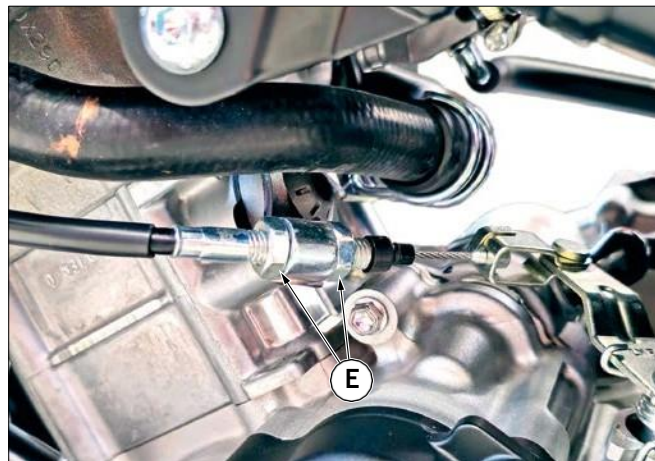
もし前述のレバー側の調整でも指定の遊びが提供できない場合、エンジン側の調整を行う必要があります。

 以下の調整はエンジンが冷えているときに行うこと。

以下の手順で調整を行ってください。

- 右図『E』が、エンジン側のクラッチレバー調整アジャスターになります。
- これを回転させて調整し、遊び『D』が適正値になるようにしてください。

 クラッチレバー遊び『D』: 10 mm (0.39 in).



 この機会にクラッチケーブルの全長にわたって点検を行いましょう。ホース（ケーブル外皮）に亀裂、切り傷、押しつぶし、又は摩耗があってはなりません。もしこうした症状が見受けられた場合は、お買い求めのファンティック正規販売店に連絡し、クラッチケーブルの交換を依頼してください。

 調整しても必要な遊び（クリアランス）が得られない場合は、クラッチの滑りなどを引き起こし、車両のエンジンやクラッチに重大な損傷を与える恐れがあります。速やかにお買い求めのファンティック正規販売店に連絡し、適切な点検、修理を受けてください。

通常のメインテナンスについて

トラブルシューティング

以下の表では、ダッシュボードに表示される異常、警告あるいは運転中に感じられる異常についての対応を記しています。

 この項の情報がすべての異常やエラーを網羅しているわけではありません。

 以下の項に相当する異常が確認された場合や、その異常が以下の手順でも解決されない場合は、お買い求めのファンティック正規販売店に早急に連絡を取り、点検を受けてください。

 ヒューズやリレーの交換が必要な場合は、原因を別途探求する必要があるため、それだけでは状況が修復できない可能性がありますので、お買い求めのファンティック正規販売店に連絡し、アドバイスを求めてください。

現象/症状	考えられる原因	まず、これをお試しください
エンジンが始動しない	キルスイッチが『OFF』になっている	ボタンが正しい位置にあるか確認
	サイドスタンドが格納されていない	サイドスタンドを格納する
	前後いずれかのブレーキが作動していない	安全な始動のための手順をもう一度確かめる
エンジンは始動しないが、点火はしている（かかりそうな音はしている）	バッテリーが充電不十分、もしくは放電状態で交換が必要	再充電、もしくはバッテリーを交換し、ファンティック正規販売店に連絡する
エンジンは始動しない。エンジンがかかりそうな気配もない。	サイドスタンドは格納されているものの、サイドスタンドセンサーに問題がある	車両の使用を中断し、正しく安全に駐車して、ファンティック正規販売店に連絡する
	スターターモーターの故障、もしくは作動不良	車両の使用を中断し、正しく安全に駐車して、ファンティック正規販売店に連絡する
エンジンがスムーズに回らない。白煙ないしは黒煙がマフラーからみられる。エンジンから刺激臭が発生している。	エンジンオイル不足、もしくは減失	エンジンオイルレベルの点検。車両の使用を中断し、正しく安全に駐車してファンティック正規販売店に連絡する

通常のメンテナンスについて

JP

現象/症状	考えられる原因	まず、これをお試しください
エンジン警告灯が点灯	エンジン又はエミッションコントロールシステムの不良	車両の使用を中断し、正しく安全に駐車して、ファンティック正規販売店に連絡する
制動距離が伸びた。ブレーキは入力に対してスムーズに作動しているようだ。	パッドやディスクの摩耗	ブレーキパッドやディスクの摩耗状態を点検。車両の使用を中断し、正しく安全に停車して、ファンティック正規販売店に連絡
制動距離が著しく伸びた。ブレーキも入力に対して均等に発揮されていない様子だ	ブレーキフルードレベルが少ないか全く入っていない、あるいは交換すべき状態のまま放置されている	ブレーキフルードの点検。車両の使用を中断し、ファンティック正規販売店に連絡する
制動距離が伸び、ブレーキもスムーズに作動していない。ABSエラー警告灯が点灯。	ABSユニットの異常	車両の使用を中断し、正しく安全に駐車して、ファンティック正規販売店に連絡する
ABSエラー警告灯が点灯	ヒューズ焼け	点検、ヒューズ交換
	ABSユニットの異常	車両の使用を中断し、正しく安全に駐車して、ファンティック正規販売店に連絡する
エンジンのオーバーヒート（加熱）	冷却液不足もしくは減失	冷却液レベルの点検
温度警告灯が点灯。冷却ファン作動せず。	ヒューズ焼け	点検、ヒューズ交換
ヘッドライトが点灯しない	ヒューズ焼け	点検、ヒューズ交換
ターンシグナル（方向指示器）が作動しない	ヒューズ焼け	点検、ヒューズ交換
ホーン（警音器）が鳴らない	ヒューズ焼け	点検、ヒューズ交換
ポジション灯（ドライビングライト）が点灯しない	ヒューズ焼け	点検、ヒューズ交換
ブレーキ灯が点灯しない	ヒューズ焼け	点検、ヒューズ交換

通常のメンテナンスについて

バッテリー

- ① この項の点検を実施すべきタイミングや間隔については、『お客さまに行っていただきたい点検』のセクションを参照してください。

車両に搭載しているバッテリーはメンテナンス不要です。すなわち、電解液の量を点検したり、補水したりする必要はありません。バッテリーターミナルを点検し、汚れやさびなどを除去し清潔な状態を保ちましょう。

バッテリーの交換

⚠ この作業に自信がない場合は、お買い求めのファンティック正規販売店にご依頼ください。

⚠ 電解液（希硫酸）がバッテリーから漏れているような場合、速やかにお買い求めのファンティック正規販売店にご相談ください。

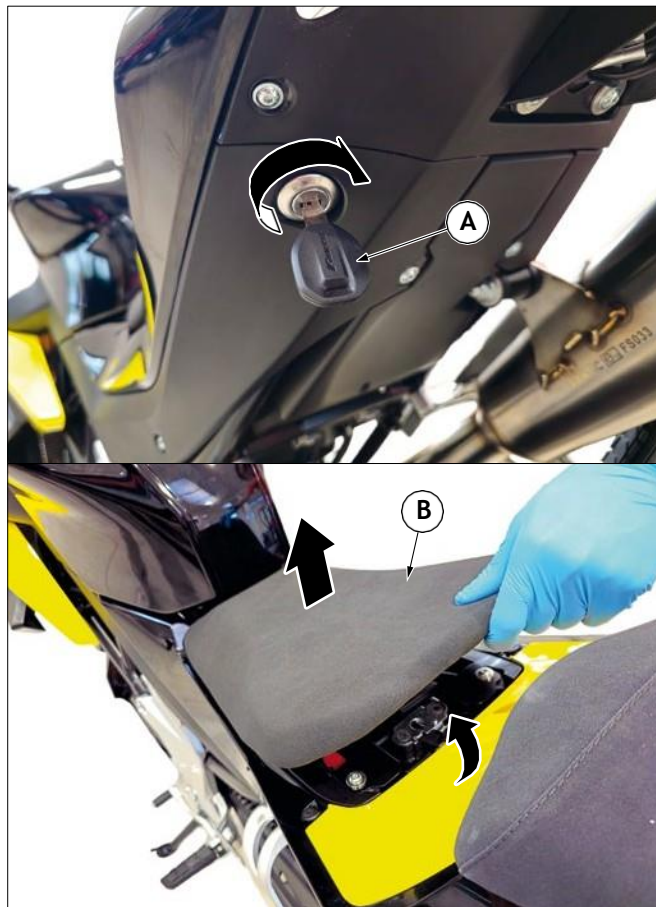
⚠ バッテリーからは火花や火炎を遠ざけてください。

車両をサイドスタンドで立ててください。

イグニッションスイッチをOFFにし、イグニッションスイッチからキーを抜いてください。

キー『A』をシート下部、中央左側のパネルに位置するシートロックに挿入し、右図の通り時計回りに捻ります。

シート『B』を持ち上げ、取り外してください。



通常のメンテナンスについて

JP

バッテリーカバー（右図『C』）を、『D』の2つのスクリューを回して取り外します。

ネガティブ（マイナス）ターミナル『E』を先にスクリューを回して取り外します。

続いてポジティブ（プラス）（赤）ターミナル『F』を外します。

バッテリー本体『G』を車両から取り外します。

バッテリーターミナルの洗浄

⚠ 以下の作業に自信が持てない場合は、お買い求めのファンティック正規販売店に作業を依頼してください。

① バッテリー劣化を避けるためにも、長期間車両を使用しない場合は、バッテリーターミナルを外しておくことをおすすめします。

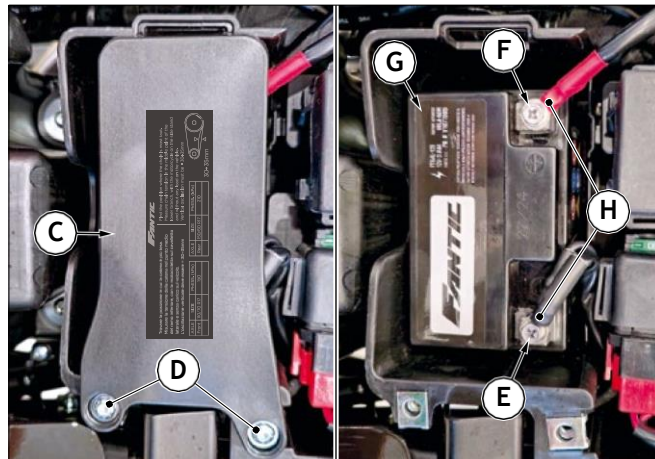
右図『H』のターミナルが錆び始めていたり、異物が付着している場合、暖かい水などで洗浄し、清潔にしてください。錆が重篤な場合、ゴーグルを装着し、サンドペーパーやメタルポリッシャーのようなケミカルを用いてターミナルを洗浄し、清潔にしてください。こうした作業は車上では行わず、必ずバッテリーを車両から取り外して行ってください。

バッテリーの搭載

取り外しと逆の手順で組み付を行ってください。必ずポジティブ（プラス）ターミナルを先に装着し、その後ネガティブ（マイナス）を装着すること。シートを取り付ける際には、シート下などにキーを置き忘れていないことを確認すること。また、乗車前に、必ずシートが適切に取り付けられていることを確認すること。

⚠ あらかじめ用意されている保護材等を除去しないこと。バッテリーの端子（極性）を間違えないこと。端子をワセリンなどのグリースで保護すること。

⚠ バッテリーの廃棄はお住まいの地域の規制、規則に従い、適切に処分し、リサイクルと環境保護に正しくコミットすること。



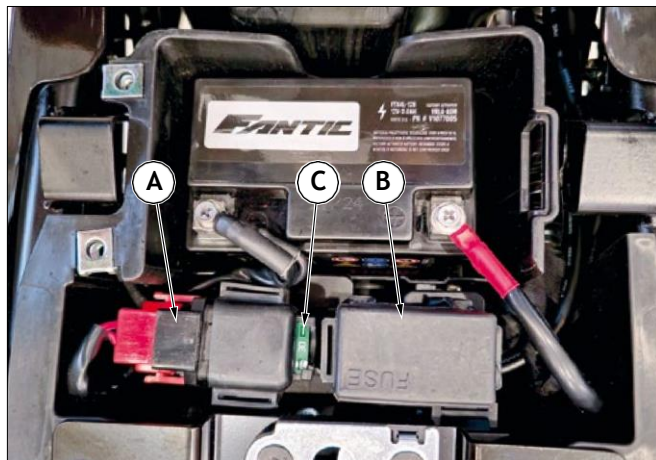
通常のメンテナンスについて

ヒューズ及びリレー

ヒューズは車両の電子回路を保護するために設けられています。ご使用中の車両の電装品が動作しなくなった場合、ヒューズを点検し、焼けているようなら交換してください

⚠ ユーズが頻繁に焼ける場合、電気関係のトラブルが疑われます。そうした場合は早急にお買い求めのファンティック正規販売店に連絡し修理を依頼してください。

⚠ 焼けたヒューズを修理して使ったり、アンペア数の異なるヒューズを使用しないこと。ヒューズの誤用は回路の短絡や火災、電装部品全体の損傷につながる恐れがあります。



ヒューズの仕様について

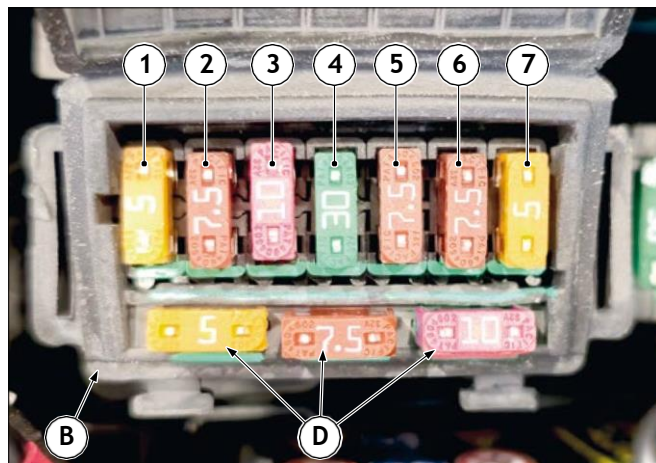
A. メインヒューズ (30 A)

B. ヒューズボックス

1. ECUへの電力供給 (5 A)
2. 冷却ファン (7.5A)
3. 燃料噴射及びエミッションコントロール (10A)
4. ABSユニット (30A)
5. メインキー関連 (ECU、ABS、ダッシュボード、USB、スターターリレー (7.5A)
6. 灯火類 (7.5A)
7. ダッシュボード (5A)

C. メインヒューズのスペア (30 A)

D. スペアのヒューズ (5 A, 7.5 A, 10 A)



ヒューズの取り外し



この作業についてよくわからない場合は、お買い求めのファンティック正規販売店に作業を依頼してください。

イグニッションスイッチをOFFにし、キーを抜いてください。

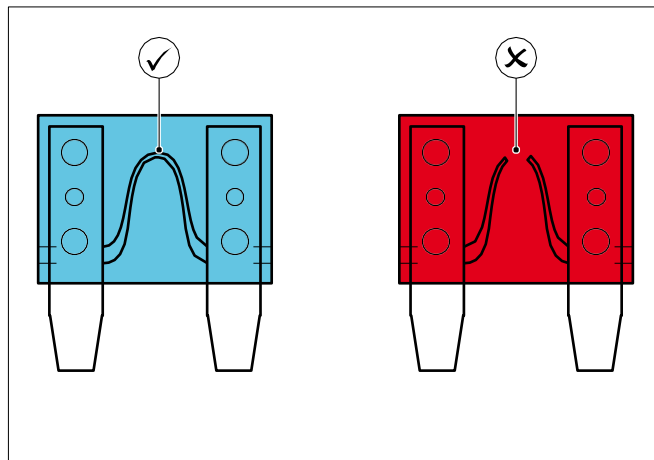
バッテリーの項での説明を参照し、シートを外します。

ヒューズボックスカバーを取り外します。

ヒューズは1本ずつ確実に抜いて点検し、ヒューズ内のフィラメントが切れていないかを確認してください。

ダメージが見受けられた場合にはヒューズを交換してください。その際、必ず交換前と同一の電流(仕様のものと交換すること。

ヒューズボックスカバー及びシートをもとの通り収納してください。



通常のメインテナンスについて

車両の保管について

数カ月単位で車両をご使用にならない場合には、その前にいくつかの準備を行うことをおすすめします。

- 燃料タンクを完全にカラにしましょう。
- バッテリーを車体から取り外し、適切なバッテリーチャージャーを用いて2週間に一度のペースで充電を行ってください。

 **取り外したバッテリーは乾燥した場所に保存し、保存場所の温度は5-35 °C (41-95 °F)に保ち、お子様の手の届かないところに保管してください。**

- できれば車両をタイヤで支えずに浮かした状態で保ちましょう。タイヤ空気圧が適切かどうかを定期的に点検すること。
- ドライブチェーンに注油しておくこと
- マフラーの先端をプラスチック（ビニール）などできちんと覆い、湿気や異物がマフラーからエンジン内に侵入しないようにすること
- 車両全体を通気性のあるシートなどで、車両全体が隠れるように覆うこと
- 車両は過熱されるような場所ではなく、出来るだけ寒暖差のない条件で、かつ湿度が低く、また直射日光を浴びないように保管すること

保管終了後再始動する前には：

- 保護カバーを取り去り、車両を洗車しましょう
- バッテリーの状態を点検してください
- 必ず始業前点検を徹底してください。

 **長期保管後最初の乗車時には、数キロメートルはテスト区間として、車両の状態をよく観察しながら丁寧に、また他の交通に影響されないよう気を付けて運転すること**

洗車について

車体各部の状態を正しく保つためにも、定期的な洗車は重要です。

また、以下のような状況でご使用になる場合は、さらに頻度を上げて洗車してください。

- 湿度が高い環境や、海岸の近くなど塩分の高い環境での使用
- 塩化カルシウムや凍結防止ケミカルを使用した道路での走行
- 産業系の塵ばいやタール、黒やになどが付着するような環境での使用
- スポーツ走行やオフロード走行
- 高速走行後など蟲の死骸が多く付着したり、鳥などの排せつ物が付着するような使用

植物などの下に車両を駐車させることはお勧めしません。ある種の植物からは樹液や果実など、場合によっては車両の外装や部品に悪影響を及ぼすものを受ける可能性があります。

 ファンティック・モーター社では、品質に優れたケミカル剤などを用いて車両を洗淨することをおすすめします。適切な商品を使用しない場合、車両や構成部品にダメージを負わせる恐れがあります。洗車や磨き上げには、アルコールやガソリンのような揮発性の強いケミカルは使用しないでください。推奨品は、環境にも優しい天然素材の水性せっけんなどになります。

 高圧洗車機や蒸気を用いたスチームクリーナーなどの使用は、車両のシール類、オイルシール類やブレーキシステム、電装部品、ダッシュボードやシートにダメージを加える恐れがあります。ファンティックモーター社としては、こうした高圧洗車機の仕様や、スチームクリーナーでの洗車はお勧めいたしません。

 水分の侵入を避けるためにも、洗車前に必ず電源をオフにし、ライダー及びパッセンジャーシートを適切に覆うなどしてください。

通常のメインテナンスについて

洗車は強い日差しを避けて行ってください。特に夏などボディが日差しで熱気を帯びているような場合、洗剤が除去される前に乾燥し、ボディや塗装を痛める原因となりがねません。

気温が40度以上の環境下では樹脂部品を痛める可能性が高いため液体洗剤の使用を避けましょう。

高圧洗車やスチーム、圧縮空気による乾燥は特に以下の部位には避けるようにしてください：

- ライダー・シート
- パッセンジャー・シート
- ホイール・ハブ
- ハンドルバー・スイッチ
- ベアリング
- ブレーキフルード・マスターシリンダー及びリザーバータンク
- 工具及び表示灯
- マフラーの出口
- ステアリングロック
- 燃料タンクキャップ、冷却液リザーバーキャップなど
- ヘッドライト及びテールライト
- その他あらゆる電装部品
- デカール

あたたかい水を弱めの水流で用いて、まず車体全体をすすぎ落します。特に汚れている部位を丁寧にすすぎましょう。柔らかいスポンジを用いて、適切な洗剤を使用し、車体全体を洗車します。その後、改めて低圧の水流でよくすすぎましょう。セーム皮のウェスなどを用いて水分を拭き取ります。

洗車後、ブレーキ力が弱まる可能性がありますので、ディスクローターは丁寧に拭き上げて水分を除去し、ブレーキパッドも乾燥するのを待ってから走行しましょう。洗車後の走行ははじめは十分に注意し、特にブレーキは何度か使用して確実に制動することを確認して下さい。

細心の注意を払っての洗車が完了して初めて、磨き上げのプロセスに進むことができます。シリコンワックスを用いて車体を磨き上げましょう。

 **塗装面を痛めないためにも、研磨剤を含むペーストなどを用いないこと。**

 **制動力などへの影響を避けるためにも、ブレーキシステムに保護ワックスなどは使用しないこと。**

 **シートにはワックスは使用しないこと。表皮を痛める恐れがあるほか、滑りやすくなることでライダー、パッセンジャーの双方に万が一の時のリスクを増加させたり、事故の誘因となる恐れがあります。**

推奨商品について

① 潤滑油等は環境規制に合致している商品、もしくは規制値を超える性能を持つ商品を選ぶこと。

JP

商品・部位	性能/規制/製品名等	備考				
4サイクルエンジンオイル	SAE 10W40（MOTUL 7100）	鉱物油は使用しない				
ベアリング、ジョイント、リンク等へのグリース	リチウムグリース					
冷却液	エチレングリコール系不凍液	水で薄めずに使用すること				
フォークオイル	7.5W（MOTUL Fork Oil Factory Line 7.5W）					
ドライブチェーン潤滑	MOTUL C2 チェーンlub ロード					
ブレーキフルード	DOT4（MOTUL Brake Fluid DOT4）					
電装品接点等の洗浄	接点クリーナー					
燃料	無鉛ガソリン、95オクタン以上、エタノール混合最大10%	<table><tr><th colspan="2">FUEL TYPE</th></tr><tr><td>E5</td><td>E10</td></tr></table>	FUEL TYPE		E5	E10
FUEL TYPE						
E5	E10					
ゆるみ止め接着剤	中強度/高強度ゆるみ止め(指定に応じて)					
ボルト固着止めケミカル	アンチシーズ・ルブリカント					
締結トルク用耐摩耗潤滑油	エンジンオイル					
ゴムシール部品等の洗浄	リチウムソープ/グリース					

通常のメンテナンスについて

商品/部位	Characteristics	Remarks
バッテリーターミナル	白色ワセリン	
車体の洗浄（洗車）	室温で低圧の流水で洗車する 天然の水溶性石鹼を使用	攻撃性の高い洗剤は避ける
ブレーキシステムの洗浄（ブレーキパッド及びシール）	ディスクブレーキ・スプレークリーナー	ブレーキパッドの洗浄や樹脂 部品の洗浄には使用しない こと

メンテナンス・スケジュール

-  メンテナンス・スケジュールには、お使いのファンティック製車両を安全性、信頼性および環境性能を確保しつつ、所定の性能を発揮するために必要な、定められたメンテナンス事項が記載されています。
-  定期メンテナンスは、ファンティック・モーター社が定める基準並びに仕様に基づいて、適切に行われること。
-  お買い求めのファンティック正規販売店に整備をご依頼いただくことで、適切な訓練を受けた技術者が必要な設備を備えた作業所で、定められた基準に則ってメンテナンスを実行いたします。
-  ここで定めるスケジュールに則り、規定のサービスを正しく受けることで、車両が確実に理想的な条件で使用できていることを確認できます。
-  Fファンティック・モーター社は、お客様自身のメンテナンスによる車両や乗車人員、および関連する対象物件等のダメージや保証、民事訴訟に関連するいかなる障害等についての責任は負いかねます。
-  車両が雨や塵灰の厳しい条件下、あるいはオフロードやサーキット走行などを行われる場合には、定められたスケジュールよりも短い間隔でメンテナンスを行うこと。
-  過酷な環境（埃や砂塵の多い場所など）での使用や、そうした環境下での長期にわたる頻繁な使用の場合には、必要に応じて、車両の点検を強化し、また早急に整備を実施する必要があります。
-  車両の走行距離が規定値（1000km）に達していなくても、ご購入から1年以内に最初の点検（初回点検）を受けることが必要です。
-  適切なタイミングでのメンテナンスは、保証の条件でもあります

メンテナンス・プラン

メンテナンス・スケジュール

- ① 以下のテーブル（表）には、ファンティック正規販売店で行うべきすべてのメンテナンスについて、そのタイミングが示されています。
- ① ファンティック・モーター製のストリートモデルにおける定期点検間隔は、3000kmごとに行うよう定められています。なお、新車ご購入後最初の1000km走行後は、慣らし運転終了時のメンテナンスの実施が必要で、これだけ例外的メンテナンスとなります。

箇所（部位）	内容	頻度/タイミング (x 1000 km)					指定 期間	指定 距離
		1	3	6	9	12		
燃料系統	- 燃料ホースに亀裂やダメージがないか点検			✓		✓	毎年	
マップ確認	- ECU内のマップが最新版か点検	✓		✓		✓		
エアフィルター	- 清掃			✓				
	- 交換					✓		
スパークプラグ	- 目視点検 - 清掃、電極ギャップの調整（必要に応じて）			✓				
	- 交換					✓		
バルブ	- バルブクリアランスの確認 - 必要に応じて調整			✓		✓		
エンジンオイル	- オイルレベル、にじみ、漏れなどの点検	-						500 km毎
	- 交換	✓	✓	✓	✓	✓	毎年	
エンジンオイル・フィルター	- 交換	✓	✓	✓	✓	✓	毎年	
冷却システム	- 冷却液レベル、滲み、漏れなどの点検	✓		✓		✓	毎年	
	- 冷却液の交換	-					3年毎	
クラッチ	- 動作の点検 - 必要に応じて調整	✓		✓		✓		

メンテナンス・プラン

箇所（部位）	内容	頻度/タイミング (x 1000 km)					指定 期間	指定 距離
		1	3	6	9	12		
ドライブチェーン	- 潤滑及び洗浄 - 必要に応じて調整	-						500 km毎
	- 必要に応じて交換	①					-	-
バッテリー	- 充電レベルの確認			✓		✓	毎年	
ブレーキシテム	- ブレーキ動作の確認	✓	-	✓		✓	毎年	
ブレーキフルード	- 液量の確認	✓		✓		✓	毎年	
	- 交換	-					2年毎	
ブレーキパッド	- 摩耗の確認 - 必要に応じて交換	✓		✓		✓		
ブレーキディスク	- 摩耗の確認 - 必要に応じて交換	✓		✓		✓		
ブレーキホース	- 亀裂、損傷等の点検 - 取り付け状態や締結の点検、確認	✓		✓		✓	毎年	
ブレーキペダル/シフトペダル	- リチウム洗剤、グリースで潤滑	✓		✓		✓		
スロットルコントロール	- 動作の点検、確認 - 遊びの点検、必要に応じ調整 - 必要に応じケーブル、スリーブの潤滑	✓		✓		✓		
クラッチコントロール	- 動作の点検、確認 - クラッチの遊び点検、調整 - ケーブルの点検、潤滑	✓		✓		✓		
クラッチレバー・ピボットピン	- リチウム洗剤、グリースで潤滑、清掃	✓		✓		✓		
タイヤ及びホイール	- 表面の傷み、空気あるの点検、			✓		✓	毎年	
ホイールベアリング	-ベアリングのゆるみ、ダメージの点検			✓		✓		

JP

メンテナンス・プラン

箇所（部位）	内容（やること）	頻度/タイミング (x 1000 km)					指定 期間	指定 距離
		1	3	6	9	12		
ハンドルバー・ベアリング	- ベアリングの点検、ハンドル公差の点検			✓		✓		
	- リチウム石鹸ベースグリースで潤滑、清掃	-						24000 km毎
フォーク	- 作動点検、オイル漏れ点検確認.	✓		✓				
	- オイル交換					✓		
	- オイルシール交換					✓		
リアショックアブソーバー	- 作動点検、オイル漏れ点検確認	✓		✓		✓	毎年	
リアサスペンションピボット	- 防錆ケミカルなどでサスペンション可動部を洗浄、潤滑	✓		✓		✓		
パッセンジャーフットレスト	- 動作を点検し必要に応じ潤滑	✓		✓		✓	毎年	
サイドスタンド	- 動作の点検 - 必要に応じリチウム石鹸ベースのグリースで潤滑	✓		✓		✓	毎年	
サイドスタンドスイッチ	- 動作の点検、確認	✓		✓		✓		
可動部分やボルト、ナットで締結されている部分のゆるみなどの点検 ②	- 正しく動作するかを点検、確認。必要に応じてリチウム石鹸ベースのグリースで潤滑 - 確実に締結されているか、規定外のクリアランスが生じていないかなど点検、確認 - 摩耗状態を点検し必要に応じて交換	✓		✓		✓		

① ドライブチェーン: 下記の場合は交換してください。

- チェーンの摩耗、変形
- チェーンの遊び調整が困難であったり、不可能である場合
- 規定値をはるかに超えるチェーンの伸び（測定位置での規定値の最大 2% までが限界）
- リム及びスプロケットのアライメントが正しく出せない場合

② 可動部分や、ボルト/ナットで締結されている部品: 以下の部位の点検を行ってください。

- ホイール（アクスルシャフト）固定ボルト、ピン
- スイングアームピボット
- ステアリングシステム/ステムナット、リング、ベアリング
- ハンドルバー固定ボルト及びナット
- フロントフォーク締結ボルト（トリプルクランプボルト）
- フロント及びリアブレーキ・キャリパー締結ボルト
- ヘッドライト締結スクリュー
- ハンドルバー・コントロール（スイッチ類）の固定スクリュー
- 後写鏡（サイドミラー）の固定スクリュー、ナット
- ライダー及びパッセンジャーのフットレスト固定ボルト、ピン

テクニカルデータ（諸元）

テクニカルデータ	
全長	2020 mm (79.53 in)
全幅	800 mm (31.50 in)
全高	1100 mm (43.31 in)
軸距	1355 mm (53.35 in)
車重（燃料90%を含む装備状態）	138 kg (304.24 lb)
最大積載量（ライダー、パッセンジャー及び荷物の総重量）	170 kg (374.79 lb)
総車両重量（車両および最大積載量）	310 kg (683.43 lb)
シート	2
エンジン形式	4サイクル単気筒
シリンダー数	1
総排気量	125 cc (7.62 cu in)
内径及び工程（ボア/ストローク）	58.7 mm (2.31 in)
圧縮比	11.2:1
始動方式	電子式セルフスターター
アイドリング時のエンジン回転数	1750 ± 150 rpm
クラッチ	湿式多板、スリッパークラッチ装備
潤滑機構	トロコイドポンプによる圧送式矯正潤滑
冷却方式	液冷
冷却液量	0.6 リットル (0.13 UK gal, 0.16 US gal)
Type of gearbox	6-speed mechanical Pedal control on the left side of the engine

テクニカルデータ（諸元）

テクニカルデータ	
減速比(ギアレシオ)	一次減速比: $73/24 = 3.042$
	1速 ギア比: $34/12 = 2.833$
	2速 ギア比: $30/16 = 1.875$
	3速 ギア比: $30/22 = 1.364$
	4速 ギア比: $24/21 = 1.143$
	5速 ギア比: $22/23 = 0.957$
	6速 ギア比: $21/25 = 0.840$
	二次減速比: $57/14$
ドライブチェーン	D.I.D.製 428サイズ (428VIX2) - 132 リンク
エアフィルター	ペーパー式(乾式)
燃料	無鉛 95-98 オクタン
燃料タンク容量 (リザーブ含む)	12.5 リットル (2.75 UK gal, 3.30 US gal)
燃料リザーブタンク容量(残量警告灯点灯時)	2.8 リットル (0.62 UK gal, 0.74 US gal)
エンジンオイル 量	総容量: 1.05 リットル (1.11 US qt) (0.92 Imp. qt)
	オイル交換時(フィルター交換なし): 0.85 L (0.90 US qt) (0.75 Imp. qt)
	フィルター交換含むオイル交換: 0.95 L (1.00 US qt) (0.84 Imp. qt)
燃料供給機構	30mm径スロットルボディ電子制御燃料供給システム シングルインジェクター、シングルポイント式

JP

テクニカルデータ（諸元）

テクニカルデータ		
フレーム		スチール製ケージフレーム+アルミ鋳造性プレート
スイングアーム		アルミ製スイングアーム+補強トラス構成
ステアリングアングル（キャスト）		25°
ステアリングアングル（左右角）		32.5° ± 1°
フロントサスペンション		41 mm (1.61 in) 倒立式フォーク 130 mm ストローク (5.12 in)
リアサスペンション		プリロード調整式モノショックアブソーバー 130 mm ストローク (5.12 in)
フロントブレーキ	形式	パイプ製 4ピストン 28 mm (1.10 in) ラジアルキャリパー 320 mm (12.60 in) 径フローティングディスク Ø13 mm (0.51 in) マスターシリンダー/調整式レバー
	ディスクローター限界値 (厚み)	4.5 mm (0.18 in)
	ブレーキパッド限界値 (厚み)	2 mm (0.08 in)
リアブレーキ	型式	パイプ製 34 mm (1.34 in) シングルピストン・フローティングキャリパー 230 mm (9.06 in) 径ディスク Ø13 mm (0.51 in) 径マスターシリンダー
	ディスクローター限界値 (厚み)	3.6 mm (0.14 in)
	ブレーキパッド限界値 (厚み)	1 mm (0.04 in)

テクニカルデータ（諸元）

JP

テクニカルデータ		
リム（ホイール）	Type	5本スポーク式アルミ鋳造性ホイール
	Measurement	フロント: 3.00 x 17" リア: 4.00 x 17"
タイヤ	Measurement	フロント: 110/70 R17 リ ア: 150/60 R17
	Inflation pressure	フロント: 1.9 bar (190 kPa, 27.56 psi) リア: 2.1 bar (210 kPa, 30.46 psi)
	Reference model	ピレリ ディアブロ ロツソ IV
ABSシステム	2チャンネルABS システム コーナリングABS機能付き（オプション）	
スパークプラグ	NGK MR8E-9	
バッテリー	12 V - 3.2 Ah	
フューズ	メインヒューズ: 30 A セカンダリヒューズ: 5 A (2個), 7.5 A (3個), 10 A (1個), 30 A (1個)	
ジェネレーター	14 V - 150 W @ 5000 rpm	
ターンシグナル	LED	
ハイ/ロービーム ライト	LED	
ポジション/ブレーキライト	LED	
ライセンスプレート灯	LED	

規制適合宣言

規制適合宣言
EU 指令 2014/53/EU



EU規制への適合確認（簡易版）：

この車両は、電波を発する部品が搭載されています。関連部位の製造業者は、これらの部品が、販売地域の法において、EU指令2014/53/EUに準拠していることを確認します。EU指令への適合を確認する完全な書類は以下のウェブサイトで確認できます：www.Fantic.com/RED

電波を発する機器の製造事業者：

EU指令 2014/53/EUにより、すべての電波を発する機器には製造事業者の名前、住所を記載することが求められています。しかしながら、対象機器の寸法等の要因により、法令によって求められる製造事業者名および住所については、以下に明示します。なお、これらの部品は十分な知識と技術を持った者だけがアクセス可能となっております。

TAB.1

車両に搭載されている電波を発する機器の名称	周波数	最大出力
デジタル・ダッシュボード		
ブルートゥース®	2402-2480MHz	-2.63 dBm

TAB.2

車両に搭載されている電波を発する機器の名称	製造事業者
デジタル・ダッシュボード	Chengdu Tianxing Automobile Parts Co., Ltd No. 333, Motor City Avenue, Economy and Technology Development Zone, LongquanChengdu, Sichuan, PRC.

JP

 注意:
十分な知識と技術を持つ者のみが本デバイスにアクセスすることが可能。

